Wireless Broadband Router

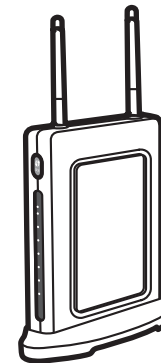
IEEE802.11n（Draft）/11g/11b準拠 無線LANブロードバンドルータ

LAN-WN22/R

IEEE802.11g/11b準拠 無線LANブロードバンドルータ

LAN-WN12/R

User's Manual

このマニュアルは、別冊の「かんたんセットアップガイド」とあわせてお読みください。

●このマニュアルで使われている用語

このマニュアルでは、一部の表記を除いて以下の用語を使用しています。

用　語	意　味
本製品	無線LANブロードバンドルータ「LAN-WN22/R」および「LAN-WN12/R」を総称して「本製品」と表記しています。
11n（Draft）	IEEE802.11n規　格　のDraft版　を「11n（Draft）」、IEEE802.11g規　格　を「11g」、IEEE802.11b規格を「11b」と省略して表記している場合があります。
G-Next	IEEE802.11nの技術を使い、11n（Draft）準拠のアダプタとの間で最大150Mbpsの高速転送を実現した、ロジテックのオリジナル技術を「G-Next」と表記しています。
無線ルータ	無線LANブロードバンドを略して「無線ルータ」と表記しています。
無線アダプタ	PCカードタイプの無線LANカード、無線LAN USBアダプタの総称である「無線LANアダプタ」を略して「無線アダプタ」と表記しています。
無線クライアント	無線アダプタを取り付けたパソコン、または無線LAN機能を内蔵したパソコンを「無線クライアント」と表記しています。
有線クライアント	LANアダプタ（イーサネットアダプタ）を持ったパソコンのことを「有線クライアント」と表記しています。

●このマニュアルで使われている記号

記　号	意　味
注 意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

ご注意

IEEE802.11n（Draft）/11g/11b準拠 無線LANブロードバンドルータ

LAN-WN22/R

IEEE802.11g/11b準拠 無線LANブロードバンドルータ

LAN-WN12/R

User's Manual

ユーザーズマニュアル

はじめに

この度は、ロジテックの無線LANブロードバンドルータ製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには無線LANブロードバンドルータを使用するにあたっての手順や設定方法が説明されています。また、お客様が無線LANブロードバンドルータを安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

安全にお使いいただくために

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

警　告	**この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。**
注　意	**この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。**

警　告

本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

本製品から発煙や異臭がしたときは、直ちに使用を中止したうえで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

本製品に水などの液体や異物が入った場合は、直ちに使用を中止したうえで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

本製品を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

注　意

本製品を次のようなところで使用しないでください。
・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
・直射日光のあたるところ
・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
・静電気の発生するところ、火気の周辺

長期間本製品を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。
故障の原因になります。

無線LANをご使用になるにあたってのご注意

●無線LANは無線によりデータを送受信するため盗聴や不正なアクセスを受ける恐れがあります。無線LANをご使用になるにあたってはその危険性を十分に理解したうえ、データの安全を確保するためセキュリティ設定をおこなってください。また、個人データなどの重要な情報は有線LANを使うこともセキュリティ対策として重要な手段です。

●本製品は電波法に基づき、特定無線設備の認証を受けておりますので免許を申請する必要はありません。ただし、以下のことは絶対におこなわないようにお願いします。

・本製品を分解したり、改造すること
・本製品の背面に貼り付けてある認証ラベルをはがしたり、改ざん等の行為をすること
・本製品を日本国外で使用すること

これらのことに違反しますと法律により罰せられることがあります。

●心臓ペースメーカーを使用している人の近く、医療機器の近くなどで本製品を含む無線LANシステムをご使用にならないでください。心臓ペースメーカーや医療機器に影響を与え、最悪の場合、生命に危険を及ぼす恐れがあります。

●電子レンジの近くで本製品を使用すると無線LANの通信に影響を及ぼすことがあります。

もくじ

Chapter 1

概要編

1 製品の保証について

製品の保証とサービス

本製品には保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

詳しい保証規定につきましては、保証書に記載された保証規定をお確かめください。

●その他のご質問などに関して

P9「2. サポートサービスについて」をお読みください。

2 サポートサービスについて

下記のロジテック・テクニカルサポートへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報につきましては、インターネットでも提供しております。

ロジテック ホームページ　http://www.logitec.co.jp/

弊社Webサイトより、ユーザー登録いただくことをお勧めします。
登録いただいたお客様を対象に、ご希望に応じて弊社発行のメールマガジン、弊社オンラインショップからの会員限定サービスをご案内させていただきます。また、登録いただいた製品に関連する重要な発表があった場合、ご連絡させていただくことがあります。

ロジテック・テクニカルサポート（ナビダイヤル）
TEL：0570-050-060　　FAX：0570-033-034

受付時間：月曜日～金曜日 9:00～19:00　※FAXによる受付は24時間対応しております。
（ただし、夏期、年末年始の特定休業日、祝日は除きます）

本製品は日本国内仕様です。海外での使用に関しては弊社ではいかなる責任も負いかねます。
また弊社では海外使用に関する、いかなるサービス、サポートも行っておりません。

●テクニカルサポートにお電話、FAXされる前に

お手数ですが、テクニカルサポートにお電話される前に、次の項目について確認してください。

◆お電話される前に、パソコンを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。
◆対象製品が取り付けられたパソコンの前から会話が可能な場合は、パソコンの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェックできますので、解決しやすくなります。
◆FAXを送られる場合は、詳しい内容を書いた書面を添えて送付いただくと解決しやすくなります。

お調べいただきたい内容

◆ネットワーク構成
・使用しているネットワークアダプタ　　・使用しているOS
・使用しているパソコンのメーカおよび型番
・ネットワークを構成するパソコンの台数とOSの構成
・ネットワークを構成するその他の関連機器（ハブ、ルータなど）
◆具体的な現象、事前にお客様が試みられた事項（あればお伝えください）

3 本製品の概要について

本製品の特長

●LAN-WN22/RはIEEE802.11n（Draft）準拠で最大300Mbps（理論値）の高性能ルータ
LAN-WN22/Rは、IEEE802.11n（Draft）に準拠し、無線LANで最大300Mbps（理論値）という高速なデータ通信が可能です。送信用2本、受信用2本のアンテナを装備し、障害物にも強く、1階と3階というような距離でも安定した通信が可能です。

●LAN-WN12/Rは「G-Next」搭載で最大150Mbps（理論値）を実現
LAN-WN12/Rは、IEEE802.11g/11bに準拠するほか、IEEE802.11nの技術を使い、11n（Draft）準拠の無線アダプタとの併用で、無線LANで最大150Mbps（理論値）という高速なデータ通信が実現するロジテックのオリジナル機能「G-Next」を搭載しています。

●WPS機能に対応した無線LAN設定方式を採用
「ボタン方式」または「PIN方式」の2種類の方法で、面倒な暗号化の設定を意識することなく、簡単に無線LAN接続を設定できる「WPS」機能に対応しています。

●業界初！前面パネルのLEDランプを消灯可能
ルータを設置したお部屋の照明を消したときなどに、ルータの前面にあるLEDランプの点灯・点滅がわずらわしく感じられることがあります。このような場合に、本体背面にある「LED ON/OFF」ボタンをオフにすることで消灯することができます。

●スイッチひとつでルータを無効にできる「APモード」搭載
ブロードバンドモデムにルータ機能が内蔵されている場合に、本製品のルータ機能をオフにできるAPモードを装備しています。本体背面のスイッチを切り替えるだけで設定を変更できます。

●IPv6 Bridge機能を搭載
さまざまなアプリケーションや音声映像を楽しめるIPv6サービスを利用できるように、「IPv6 Bridge」機能を搭載しています。設定をオフにすることもできます。

●各種無線セキュリティ機能に対応
新しい規格であるWPA-PSK/WPA2-PSKに対応しています。WPAでは、暗号キーを一定時間ごとに自動的に変更しますので、外部からの不正解読が困難になっています。また、発信するSSIDを無線クライアント側で表示されないようにするSSIDステルス機能、無線クライアントのMACアドレスを指定してアクセスを制限するアクセスコントロール機能などを搭載しています。

●ブロードバンドルータとしての機能も充実
DoS（Denial of Service）アタックからネットワークを守るDoSファイアウォール機能、有害なWebサイトへのアクセスを制限するURLブロック機能などを備えています。

●Webブラウザベースの設定ユーティリティを搭載
本製品の設定は、クライアントパソコンのWebブラウザ上から、本体に内蔵されたWebベースの設定ユーティリティを起動しておこないます。Webブラウザからの解りやすいメニューで操作できます。インターネット経由でのアクセスも可能です。

●特定の通信の帯域幅を確保できる「QoS」機能に対応
全体の帯域のうち、特定のサービスに一定の帯域を確保できる「QoS」機能に対応しています。この機能を使うことで、ストリーミング映像を楽しんでいるときに、他のサービスに帯域を取られた、映像が止まるというような心配がなくなります。複数のサービスに個別に帯域幅を割り当てることができます。

●バーチャルサーバ機能を搭載
ポート転送（ポートフォワーディング機能）を搭載しており、本製品に接続したパソコンを「バーチャルサーバ」としてインターネット経由で安全に公開できます。PPPoE接続など、IPアドレスが動的に変化する環境でも、ダイナミックDNS（クリアネット）サーバへの接続機能を備えていますので、IPアドレスの変更なく運用が可能です。
※Clear-net（クリアネットサービス）とは、対象の弊社製品をユーザ登録してご利用いただいている方に無償で提供されるダイナミックDNSサービスです（2012年5月31日まで提供を予定しております）。

●UPnPに対応
UPnP（Universal Plug and Play）に対応しています。Windows MessengerなどのUPnP対応ソフトが特別な設定をせずに利用可能なほか、UPnP対応ネットワーク機器との組み合わせで本製品を自動的に認識、設定できます。ネットワークゲームを安心して利用できるDMZ機能も備えています。

●その他、豊富な機能を搭載
・接続する無線LAN規格を選択可能
・NTP（Network Time Protocol）サーバを自動検出して時刻を自動設定
・ファームウェアが設定ユーティリティから簡単にアップデート可能

本製品の動作環境

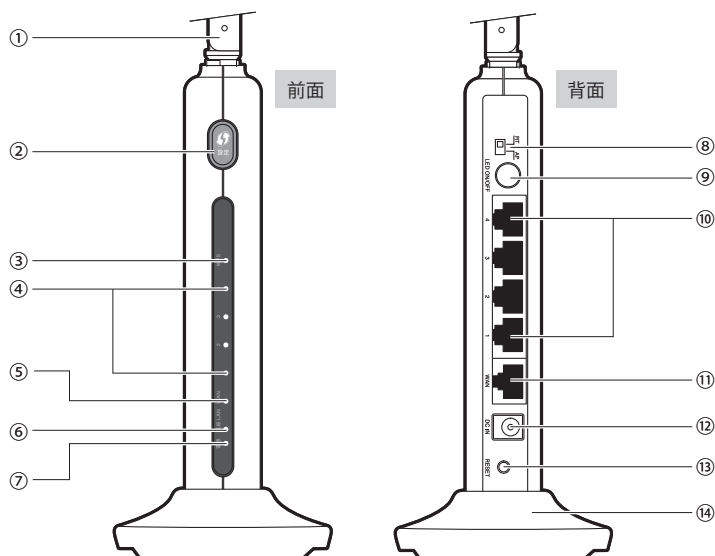
ルータ機能については、TCP/IPプロトコルを利用できるパソコンおよびOSであれば使用できます。ただし、弊社では次の環境のみサポートしています。
また、Webベースの設定ユーティリティを採用していますので、本製品の設定にはWebブラウザが必要です。

対応機種	PC/AT互換機（DOS/V）
対応ブラウザ（Web設定ユーティリティ）	Internet Explorer 5.5以降

4 各部の名称とはたらき

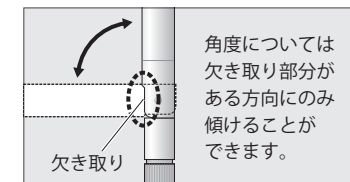
LAN-WN22/RとLAN-WN12/Rは、アンテナの形状を除いて、外観は共通です。ここでは、LAN-WN22/Rを使って各部の機能を説明しています。LAN-WN12/Rも各部の機能は同じです。

LAN-WN22/R

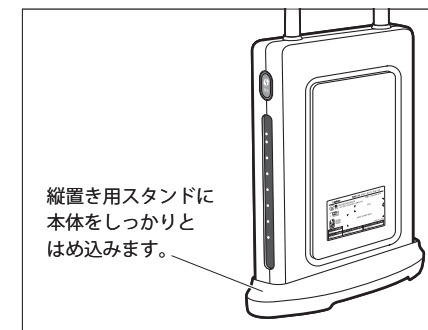
LAN-WN12/R

番号	名称	はたらき
①	ダイポールアンテナ(2本)	無線LANの電波を送信および受信するのに使用します。角度や位置を調整することで電波の状態を調整することができます。
②	WPS設定ボタン	WPS機能搭載の無線クライアント(無線LANアダプタなど)と接続するときに使用します。
③	WPSランプ(緑色)	点灯:WPS機能を使用中です。 消灯:WPS機能は使用していません。
④	LAN1〜4ランプ(緑色)	点灯:有線LANのクライアントとリンクが確立しています。 点滅:データ転送中です。 消灯:未接続の状態です。
⑤	WANランプ(緑色)	点灯:WAN側とのリンクが確立しています。 点滅:データ転送中です。 消灯:未接続の状態です。
⑥	無線LANランプ(オレンジ色)	点滅:無線LAN機能を使用中です(電波を発信しています)。
⑦	電源ランプ(緑色)	本製品の電源が入った状態です。
⑧	RT/APモード切り替えスイッチ	本製品をRT(ルータ)モードで使用するか、AP(アクセスポイント)モードで使用するかを選択するスイッチです。
⑨	LED ON/OFFボタン	本体前面のLEDランプの表示をオン/オフできるボタンです。LEDランプの点灯や点滅がわずらわしい場合はオフにすることができます。
⑩	LANポート1〜4	有線LANのクライアントなどと接続するポートです。
⑪	WANポート	ブロードバンドモデムなどWAN側機器からのケーブルを接続します。
⑫	電源ジャック	本製品に付属のACアダプタを接続します。本製品に付属以外のACアダプタを接続しないようにしてください。
⑬	リセットボタン	このボタンを10秒以上押し続けると、本製品の設定値が初期化されます(工場出荷時の状態に戻ります)。
⑭	縦置き用スタンド	本製品を縦置きで設置する場合に使用します。

●アンテナの可動範囲

本製品のアンテナは、垂直にした状態で0〜90°の角度で傾けることができます。また、回転範囲は270°です。

角度については欠き取り部分がある方向にのみ傾けることができます。

●設置時のご注意

本製品は縦置き、横置きの両方に対応しています。縦置きの場合は、必ず付属の縦置き用スタンドにセットしてご使用ください。横置きの場合は、右側面(シールの貼られた面)を下にして設置します。いずれの方向で設置する場合も、転落・引き抜け防止措置をとってください。本製品が動作している状態での転落や、コネクタ類の引き抜けは故障・データ消失の原因となります。

縦置き用スタンドに本体をしっかりとはめ込みます。

5 セットアップを始める前に

本製品のセットアップ作業を始める前に、以下について確認します。

接続事業者との契約状況を確認する

①回線事業者/プロバイダと契約は完了していますか？
回線事業者やプロバイダとの契約を完了しておく必要があります。また、フレッツサービスの場合はNTTとのご契約とは別にプロバイダとの契約が必要です。

②モデムなどの機器は準備できていますか？
本製品でインターネットを楽しむためには、ADSL/CATV/光ファイバーなどのブロードバンドモデムと本製品を接続する必要があります。モデムを別途購入されるように契約している場合は、対応モデムをご用意いただく必要があります。

③回線工事は完了していますか？
回線事業者/プロバイダとの契約に加え、屋内までの配線工事とモデムの準備が完了している必要があります。すでに開通日を過ぎていることを確認してください。

④パソコン側の必要な機器は準備できていますか？
本製品の設定および本製品と接続するネットワーク機器には、LANアダプタ（イーサネットポート）が搭載されている必要があります。パソコン本体などに内蔵されていない場合は、別途LANアダプタを準備してください。また、無線で接続する場合は、IEEE802.11n（Draft）/11g/11bいずれかの無線LAN機能が搭載されている必要があります。パソコン本体などに無線LAN機能が内蔵されていない場合は、別途無線アダプタを準備してください。各機器のセットアップ方法については、それぞれのマニュアルをお読みください。

ブロードバンドモデムのタイプを確認する

本製品は、ルータ機能に無線LAN機能を搭載した無線LANルータです。現在、プロバイダから提供されるブロードバンドモデムには、すでにルータ機能が内蔵されている製品があります。
ルータ内蔵のブロードバンドモデムに本製品を接続する場合は、本製品背面にあるRT/APモード切り替えスイッチ（→P12「4. 各部の名称とはたらき」）を「APモード」側にして使用してください。

設定に必要なプロバイダ情報を用意する

本製品のルータ機能を利用する場合、以下の情報について確認が必要です。
なお、ブロードバンドモデムに搭載されたルータ機能を使用しているため、本製品をAP（アクセスポイント）モードで利用する場合は、Chpater2「4. 無線LANで接続する」（→P29）をお読みください。

プロバイダの情報について
ご契約のプロバイダによっては、ここに説明した内容と項目や表記が異なる場合もあります。プロバイダ側の設定資料を参考に、本製品のインターネット接続の設定をしてください。

A PPPoE接続方式の場合（フレッツADSL、Bフレッツなど）

フレッツADSLやBフレッツなど「PPPoE接続」でインターネットに接続するプロバイダの場合は、ユーザーIDとパスワードが記載された資料がお手元に届いているはずです。記入欄にメモしてください。

項目	記入欄
接続方式	PPPoE
ユーザーID※	
パスワード	

※プロバイダによっては「アカウント」、「ユーザ名」などと表記されていることがあります。フレッツサービスの場合、ユーザーIDの後ろに＠以降の識別子まで入力する必要があります。

DNSサーバアドレスとサービス名
ご契約のプロバイダによっては、DNSサーバアドレスやサービス名を指定する必要がある場合があります。このような場合は、その内容も記入欄にメモしてください。

項目		記入欄
DNSサーバアドレス	プライマリDNS	
	セカンダリDNS	
サービス（ホスト）名		

※すべての項目が必要とは限りません。指示のある項目のみメモしてください。

B 通常接続（DHCP）方式の場合（Yahoo！BB、CATVインターネットサービス、USENブロードバンドなど）

DHCP機能により自動的にインターネットに接続できます。Yahoo！BBをご契約の場合は、プロバイダ情報はありません。本製品の場合は、接続するだけですぐにお使いいただけます。

※本製品の接続方式の設定を初期値の「通常接続（DHCP）」から変更している場合は、再設定が必要です。

プロバイダより「ホスト名」や「MACアドレス」の入力指示がある場合

この場合は、本製品の設定ユーティリティを使った設定が必要です。プロバイダから「ホスト名」の入力の指示がある場合は、記入欄にメモしてください。

項目	記入欄
ホスト名	

※MACアドレスは、本製品の設定ユーティリティで、アドレス入力をしなくても設定できますので、あらかじめメモする必要はありせん。

C プロバイダから固定IPアドレスが提供されている固定IP方式の場合

インターネット側のIPアドレス（グローバルIPアドレス）が固定で割り当てられるサービスです。次の内容をお調べのうえ、記入欄にメモしてください。

項目		記入欄
WAN側IPアドレス※1		
WAN側サブネットマスク		
WAN側ゲートウェイ		
DNSサーバアドレス※2	プライマリDNS	
	セカンダリDNS	

※1 グローバルIPアドレスです。　※2 指示がある場合にメモしてください。

Chapter 2

導入編

1 セットアップの流れ

有線 LAN で接続するパソコンと無線 LAN で接続するパソコンで使う

無線 LAN で接続するパソコンで使う

モデムの種類の確認と、プロバイダ情報の準備

ブロードバンドモデムにルータが内蔵されているかどうかを確認します。
また、プロバイダからユーザー ID などの情報があれば、準備しておきます。

本製品の接続

本製品をブロードバンドモデム、パソコンなどと接続します。
◆無線 LAN で接続するパソコンしか使用しない場合でも、インターネットの接続設定のために有線 LAN でパソコンを接続する必要があります※1。

ブロードバンドモデムがルータ機能を内蔵していない場合（RT（ルータ）モード）

ブロードバンドモデムがルータ機能を内蔵している場合（AP（アクセスポイント）モード）

インターネット接続の設定

フレッツなど PPPoE 接続の場合	Yahoo!BB など DHCP 接続の場合
本製品の設定ユーティリティを使ってプロバイダに接続するためのユーザー ID などを設定します。	本製品の場合、特に設定は必要ありません。

有線 LAN でのインターネット接続の確認

有線 LAN で接続したパソコンからホームページなどに接続できることを確認します。

無線 LAN アダプタのドライバ等のインストール

ご使用になる無線 LAN アダプタのドライバや設定ユーティリティを、パソコンにインストールしておきます。※2

無線 LAN 接続の設定

WPS 機能に対応する場合	WPS 機能に対応しない場合
WPS 機能を使って設定します。設定ボタンを押すだけです。※2	無線アダプタ側に、SSID やセキュリティなどを手動で設定します。※2

無線 LAN でのインターネット接続の確認

無線 LAN で接続するパソコンからホームページなどに接続できることを確認します。

これで設定は完了です。

有線 LAN で接続するパソコンだけで使う

プロバイダ情報の準備

プロバイダからユーザー ID などの情報があれば、準備しておきます。

本製品の接続

本製品をブロードバンドモデム、パソコンなどと接続します。

インターネット接続の設定

フレッツなど PPPoE 接続の場合	Yahoo!BB など DHCP 接続の場合
本製品の設定ユーティリティを使ってプロバイダに接続するためのユーザー ID などを設定します。	本製品の場合、特に設定は必要ありません。

有線 LAN でのインターネット接続の確認

有線 LAN で接続したパソコンからホームページなどに接続できることを確認します。

これで設定は完了です。

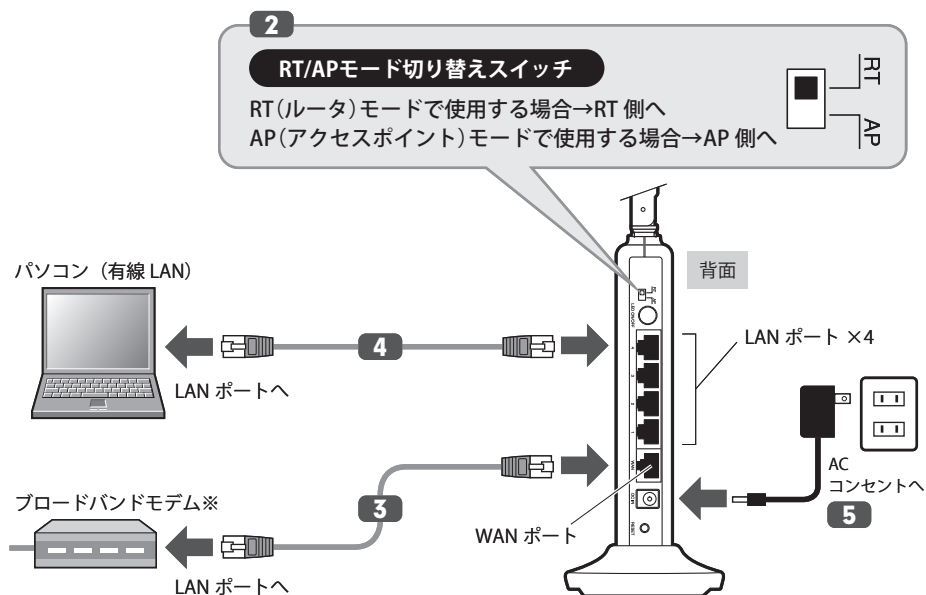
※1　無線LANだけでご使用になる場合も、本製品に設定ユーティリティに接続するために有線LANのパソコンをご用意ください。

※2　無線アダプタ側の設定については、無線アダプタの説明書をお読みください。

2 本製品を接続する

無線LANだけで利用する場合や、ゲーム機だけで利用する場合でも、初回は以下の説明どおりに接続し、正しく設定できているかをご確認ください。

1 すべての機器の電源を切ります。

2 本製品の背面にある「RT/APモード切り替えスイッチ」をご使用になる環境に合わせます。

※イラストはイメージです。ご契約のプロバイダによって外観は異なります。

3 ブロードバンドモデムのLANポートと、本製品のWANポートをLANケーブルで接続します。

4 パソコンと本製品のLANポート（4ポートのいずれか）をLANケーブルで接続します。

5 ブロードバンドモデムの電源を入れます。

6 本製品の電源を入れます。

・本製品に電源スイッチはありません。付属のACアダプタのプラグを本製品と接続し、アダプタ本体をACコンセントに接続します。
・LED ON/OFFボタンをオンにした状態で、電源ランプが点灯していることを確認します。

7 ご使用の環境にあわせて、次の手順へ進みます。

本製品をRT（ルータ）モード（→P12「4. 各部の名称とはたらき」）で使用する場合

●Bフレッツ/フレッツADSLなど「PPPoE」接続のプロバイダで利用するとき
→P23「設定ユーティリティを表示する」へ進みます。

●通常接続（DHCP）方式で、Yahoo!BBなどプロバイダからの情報を入力する必要がない場合→P28「インターネットに接続する」へ進みます。

●通常接続（DHCP）方式で、本製品のMACアドレスや、プロバイダのホスト名の入力が必要な場合→P23「設定ユーティリティを表示する」へ進みます。

●固定IP方式で利用するとき→P23「設定ユーティリティを表示する」へ進みます。

本製品をAP（アクセスポイント）モード（→P12「4. 各部の名称とはたらき」）で使用する場合

P29「4. 無線LANで接続する」へ進みます。

3 ウィザードを使ってセットアップする

はじめにご確認ください

以下の接続方式の場合は、本製品の設定ユーティリティのウィザードを使ってインターネットへの接続設定ができます。

A PPPoE接続方式の場合（フレッツADSL、Bフレッツなど）

B 通常接続（DHCP）方式でMACアドレスやホスト名の設定が必要な場合（一部のCATVインターネットサービスなど）

C プロバイダから固定IPアドレスが提供されている固定IP方式の場合

●Yahoo!BBなど通常接続方式で入力項目がない場合
本製品の接続方式の初期値は、「通常接続（DHCP）」になっていますので、通常接続方式のプロバイダで、入力項目の指示がない場合は、設定ユーティリティで接続設定をする必要はありません。P28「インターネットに接続する」へ進みます。

●上記に該当する接続方式がない場合
設定ユーティリティのウィザードでは設定できません。P38「1. インターネット接続設定（WAN側設定）」をお読みになり設定してください。

●ゲーム機だけでインターネットを利用する場合
ゲーム機でインターネットに接続する場合も「PPPoE」および「固定IPアドレス」の場合は、最初にパソコンを使ってインターネットに接続するための情報を入力する必要があります。

設定ユーティリティを表示する

本製品の各種設定をするには、パソコンからWebブラウザを使って、設定ユーリティリティを表示する必要があります。

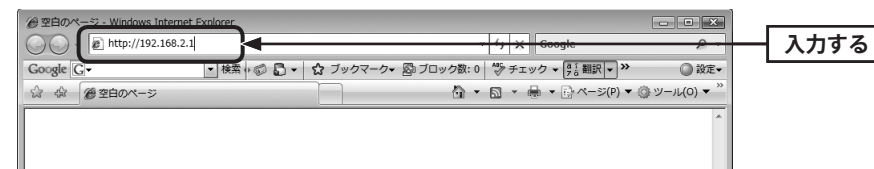
パソコンはIPアドレスが自動取得になっている必要があります
このマニュアルでは、本製品のDHCPサーバ機能により、パソコンがIPアドレスを自動取得することを前提に説明しています。パソコンに固定のIPアドレスを設定している場合は、パソコンのIPアドレスを変更しなければならないことがあります。

本製品のIPアドレス（初期値）＝192.168.2.1

1 本製品の電源が入っていることを確認してから、設定用のパソコンを起動します。

・順序が逆の場合、パソコン側がIPアドレスを正常に取得できなかったために、設定画面にアクセスできないことがあります。

2 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

3 Webブラウザの「アドレス」欄に、キーボードから「http://192.168.2.1」と入力し、キーボードの［Enter］キーを押します。

（画面はInternet Explorerの例です）

・このIPアドレスは初期値です。すでに本製品のIPアドレスを変更している場合は、変更後のIPアドレスを入力します。

4 **認証画面が表示されます。**

認証画面が表示されない場合
以下の順序で確認してみてください。

①本製品の電源が入っているか、LANケーブルの接続は正しいかを確認してください。
②いったんパソコンを終了し、本製品の電源を入れて3分以上たってからパソコンを起動してみてください。
③接続しているパソコンのIPアドレスを確認してください（→P132「4. パソコンのIPアドレスの確認方法」）。

5 **本製品のユーザー名とパスワードを入力し、OK をクリックします。**

ユーザー名	admin
パスワード	admin

・初期値は表のとおりです。半角英数字の小文字で入力します。
・本製品の設定ユーティリティが表示されます。
・次ページの「ウィザードでセットアップする」へ進みます。

不特定多数の人が利用するような環境では、第三者に設定を変更されないように、パスワードの変更をお勧めします（→P116「パスワード設定」）。

ウィザードでセットアップする

1 **［セットアップウィザード］をクリックします。**

・〈タイムゾーン〉画面が表示されます。

2 **タイムゾーンを設定します。通常は変更する必要がありませんので、そのまま 次へ をクリックします。**

・〈接続方式〉画面が表示されます。

タイムゾーン	本製品が使用するタイムゾーンを指定します。初期値は日本標準時（(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo）に設定されています。
タイムサーバアドレス	本製品の時刻を合わせるために使用するタイムサーバのIPアドレスを指定します。
夏時間設定	サマータイムを使用する場合に「有効」をチェックします。また、サマータイムの期間を設定します。

3 **ご利用になるプロバイダにあわせて、3種類ある接続方式のいずれかをクリックします。**

通常接続（DHCP）	通常接続（DHCP）方式でMACアドレスやホスト名の設定が必要な場合（一部のCATVインターネットサービスなど）	4a へ
固定IP	プロバイダから固定IPアドレスが提供されている固定IP方式の場合	4b へ
PPPoE	PPPoE接続方式の場合（フレッツADSL、Bフレッツなど）	4c へ

該当する接続方式がない場合は、ウィザードを終了し、P38「インターネット接続設定（WAN側設定）」で設定してください。

4a **必要に応じてホスト名およびMACアドレスを入力し、 次へ をクリックします。**

・ MACアドレスをコピー をクリックすると、自動的に本製品のMACアドレスが入力されます。
・手順 5 へ進みます。

DNSサーバアドレスの手動設定が必要な場合
DNSサーバアドレスを入力する必要がある場合は、ウィザード終了後、P44「DNSの設定」でDNSサーバアドレスを入力してください。

4b **P15「設定に必要なプロバイダ情報を用意する」でメモした内容をもとに必要な情報を入力し、 次へ をクリックします。**

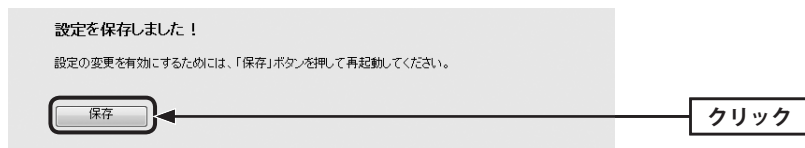
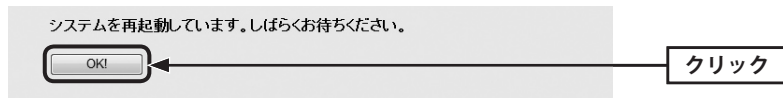
・手順 5 へ進みます。

4c **P15「設定に必要なプロバイダ情報を用意する」でメモした内容をもとに必要な情報を入力し、 次へ をクリックします。**

・手順 5 へ進みます。

●**Unnumbered PPPoE、PPPoEマルチセッションおよびその詳細項目の設定について**
これらの設定方法の詳細については、P41「PPPoEの設定」を参照してください。

●**DNSサーバアドレスの手動設定が必要な場合**
DNSサーバアドレスを入力する必要がある場合は、ウィザード終了後、P44「DNSの設定」でDNSサーバアドレスを入力してください。

5 「設定を保存しました！」と表示されます。 保存 をクリックします。

6 「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

7 メインメニューに戻ります。これでウィザードによる設定は完了です。いったんWebブラウザを閉じ、次の「インターネットに接続する」へ進みます。

インターネットに接続する

1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

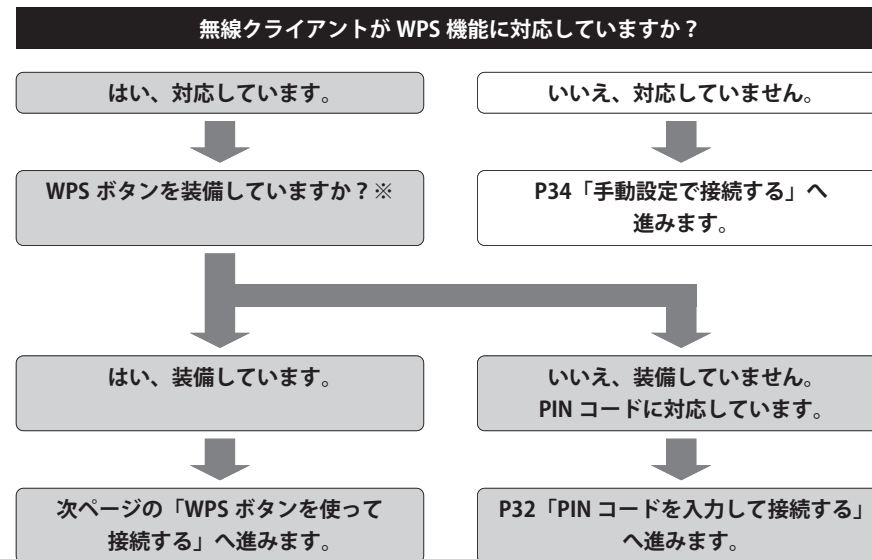
2 Webブラウザからお好みのホームページに接続し、正常に表示されることを確認します。

ロジテック Web サイト
http://www.logitec.co.jp/

4 無線LANで接続する

パソコンの無線クライアントから本製品を経由してインターネットに接続できるようにします。

はじめにご確認ください

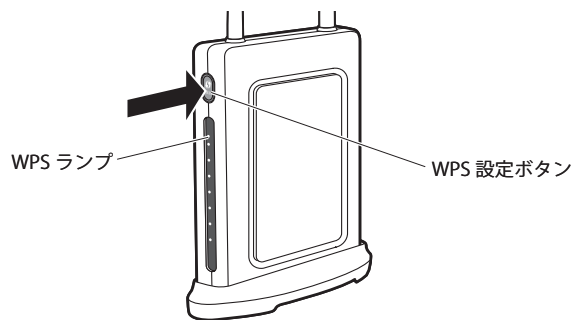
本製品はWPS機能に対応しています。WPS機能に対応する無線アダプタとの組み合わせで簡単に無線LAN機能を設定できます。ボタンを押すだけで設定ができる「プッシュボタン方式」と、用意された数字を入力するだけで設定できる「PINコード方式」の両方に対応しています。
WPS機能に対応していない無線アダプタから本製品に接続するときは、本製品の設定値を無線アダプタ側に設定することで接続することができます。

※WPSボタンについて
WPSの「プッシュボタン方式」は、無線アダプタ本体に装備されている「WPSボタン」を押して設定するタイプと、設定ユーティリティ上にある「WPSボタン」アイコンをクリックして設定するタイプがあります。

WPSボタンを使って接続する

1 **無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。**

2 **無線アダプタの説明書をお読みになり、無線アダプタ側が「WPS」設定をできるように準備します。**

弊社製無線アダプタの画面例

3 **本製品の前面にある「WPS設定ボタン」を1秒間押して離します。**

・WPSランプが緑に点灯し、WPS対応の無線LANクライアントの接続を待つ状態になります。

接続が完了するか、一定時間がすぎるとWPSランプは消灯します。

4 **無線アダプタ側のWPS用の「設定ボタン」を指定された時間だけ押します。**

・弊社製のWPS対応製品の場合は、「設定ボタン」を1秒以上押します。

5 **無線アダプタ側の設定ユーティリティで、本製品に接続できたことを確認します。**

弊社製無線アダプタの画面例

・本製品のWPSランプは消灯します。

6 **Webブラウザからお好みのホームページに接続し、正常に表示されることを確認します。**

ロジテックWebサイト http://www.logitec.co.jp/

7 **これでWPS機能を使った無線クライアントの設定は完了です。無線クライアントが他にもある場合は、同じ手順で設定します。**

PINコードを入力して接続する

WPS機能のPINコード方式で設定します。無線ルータ側に設定されたPINコードを無線アダプタに入力する方法と、無線アダプタ側に設定されたPINコードを無線ルータに入力する方法があります。ここでは無線ルータ側に設定されたPINコードを無線アダプタに入力する場合の操作の流れを説明します。

無線アダプタ側のPINコードを本製品に入力する場合
P78「WPS機能の設定」をお読みになり、本製品のモード設定を「Registrar」に設定したうえで、無線アダプタ側のPINコードを入力し、実行してください。

1　無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。

2　本製品の設定ユーティリティを表示します。

・設定ユーティリティの表示方法については、P23「設定ユーティリティを表示する」を参照してください。

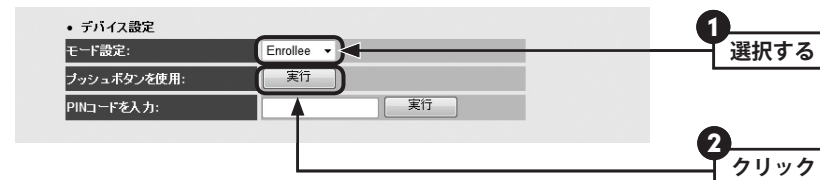
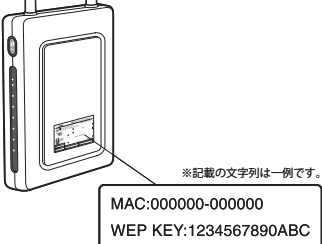
3　設定ユーティリティの［ホーム］→［一般設定］→［無線LAN設定］→［WPS］の順にクリックして、〈WPS設定〉画面を表示します。

4　「WPS設定ステータス」の「PINコード」をメモします。

本製品のPINコード

5　無線アダプタの説明書をお読みになり、無線アダプタのPINコードの［設定モード］を「Registrar」に設定してから、本製品のPINコードを無線アダプタ側に入力します。

弊社製無線アダプタの画面例

6　本製品の設定ユーティリティの〈WPS設定〉画面の［モード設定］で「Enrollee」を選択し、［プッシュボタンを使用］の 実行 をクリックします。

7　無線アダプタ側でPINコードの受信を実行します。

弊社製無線アダプタの画面例

8　設定後、無線LAN経由でインターネットにアクセスするなどして、接続できていることを確認してください。

手動設定で接続する

WPS機能を持たない無線アダプタの場合は、無線アダプタ側の設定ツールを使って、必要な設定を手動でおこないます。本製品の初期値の設定は以下の通りです。無線アダプタの説明書と、次ページからの作業の流れを参考にして、本製品の設定値を無線アダプタ側に設定してください。

項目	本製品の設定値（初期値）
SSID	logitecuser
認証方式	Open
暗号化方式	WEP（128bit ASCII）
WEPキーNo.	Key1
WEP KEY	本製品の右側面にあるシールの「WEP KEY」に記載された半角英数字です。大文字と小文字が区別されますので正確に入力してください。 ※記載の文字列は一例です。 MAC:000000-000000 WEP KEY:1234567890ABC WEP KEY記入欄

上記の設定値と本体右側面にあるシールに記載されたWEP KEYを利用すれば、本製品の設定ユーティリティを表示せずに、無線クライアントを接続することができます。

1 **無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。**

2 **無線アダプタの設定ユーティリティを起動します。**

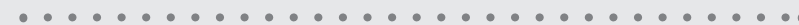
3 **設定ユーティリティのリストのSSIDに「logitecuser」と表示された場合は選択します。**

・SSIDを自動的に検出できない場合は、手動で無線アダプタの設定ユーティリティにある「SSID」に「logitecuser」と半角英数字（小文字）で入力します。

4 **本製品はセキュリティ機能として暗号化機能（WEP 128bit ASCII）があらかじめ設定済みです。無線アダプタの設定ユーティリティにある[暗号化]に関する設定画面を表示します。**

5 **無線アダプタの説明書をお読みになり、本製品の設定内容を無線アダプタ側に設定します。**

6 **設定後、無線LAN経由でインターネットにアクセスするなどして、接続できていることを確認してください。**

Chapter 3

詳細設定 編

1 インターネット接続設定（WAN側設定）

メニューの［WAN側設定］メニューにある各設定項目の設定方法について説明します。

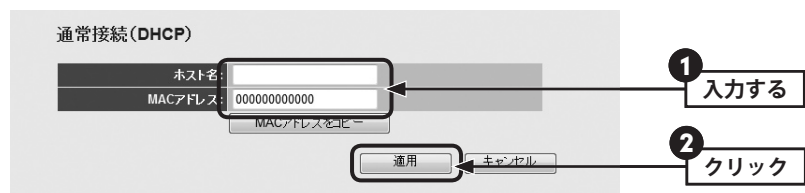
通常接続（DHCP）の設定

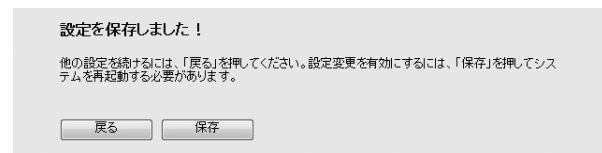
プロバイダ側から動的にIPアドレスを取得する場合の設定手順を説明します。プロバイダから、ホスト名およびMACアドレスを指定するように指示があった場合だけ以下の手順で設定します。

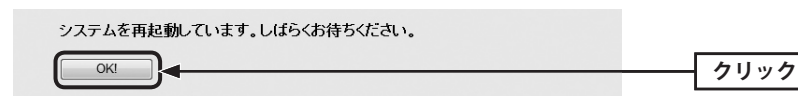
Yahoo!BBや一般的なCATVインターネットサービスの場合
本製品の初期値は「通常接続（DHCP）」に設定されています。Yahoo!BBなどのプロバイダの場合は、ホスト名やMACアドレスの指定は不要ですので、ご購入時のまま設定を変更することなく、本製品をブロードバンドモデムに接続するだけで使用できます。

1 ［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［WAN側設定］→［通常設定（DHCP）］を選択します。

・〈通常接続（DHCP）〉画面が表示されます。

2 プロバイダから［ホスト名］と［MACアドレス］を入力するように指示がある場合は、それぞれを入力し、［適用］をクリックします。

［MACアドレスをコピー］について
このボタンをクリックすると、接続しているパソコンのMACアドレスを自動的にコピーすることができます。

3 「設定を保存しました！」と表示されます。

●他の設定を続ける場合→［戻る］をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
●変更した設定を保存して有効にする場合→［保存］をクリックし、手順 4 へ進みます。

4 「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
［OK］にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば［OK］をクリックします。

固定IPの設定

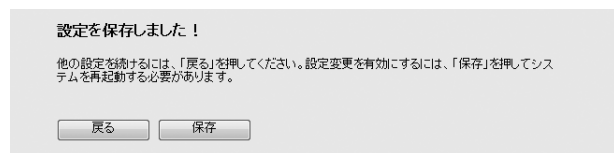
プロバイダより固定のIPアドレスが割り当てられるサービスを利用している場合の設定手順を説明します。

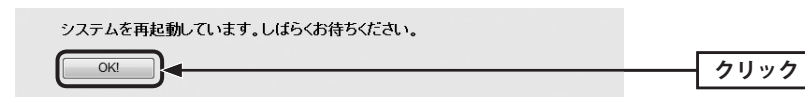
1 ［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［WAN側設定］→［固定IP］を選択します。

・〈固定IP〉画面が表示されます。

2 プロバイダから指定されたIPアドレス等の情報を入力し、［適用］をクリックします。

・プロバイダから指定されたIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

3 「設定を保存しました！」と表示されます。

●他の設定を続ける場合→［戻る］をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
●変更した設定を保存して有効にする場合→［保存］をクリックし、手順 4 へ進みます。

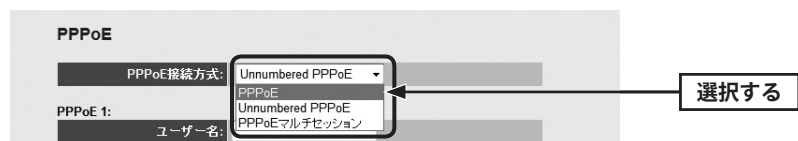
4 「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
［OK］にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば［OK］をクリックします。

PPPoEの設定

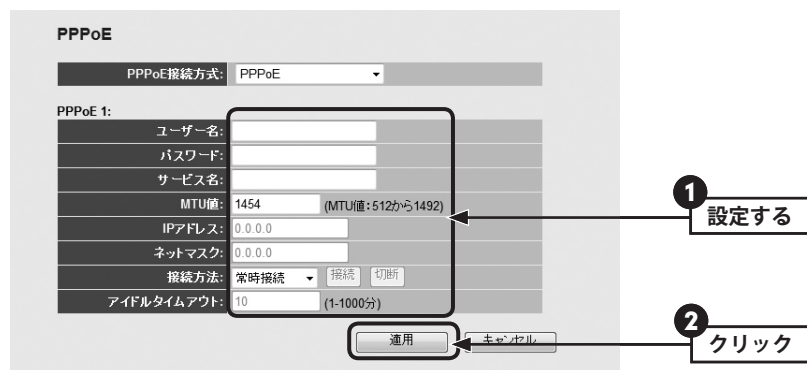
プロバイダがPPPoE接続の場合の設定手順を説明します。通常のPPPoE接続以外に、Unnumbered PPPoE接続とPPPoEマルチセッション接続を選択できます。

PPPoE接続	フレッツADSLやBフレッツなどのサービスで利用されている、インターネットへの一般的な接続方法です。
Unnumbered PPPoE接続	プロバイダから取得した複数のWAN側IPアドレス（グローバルIPアドレス）をパソコンに割り当てて使用する機能です。プロバイダがこのサービスに対応している必要があります。
PPPoEマルチセッション接続	PPPoEセッションを2つ同時に使用する機能です。本製品は2つのプロバイダと契約して同時に使用することができます。プロバイダがこのサービスに対応している必要があります。

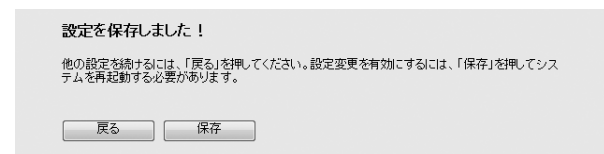
1 ［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［WAN側設定］→［PPPoE］を選択します。

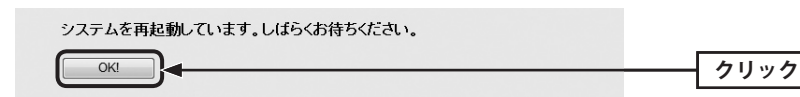
・〈PPPoE〉画面が表示されます。

2 **PPPoEの接続方法を選択します(→P41「PPPoEの設定」)。**

3 **プロバイダから指定されたユーザー名やパスワードなど必要な情報の入力と、オプションなどを設定します。設定が終われば 適用 をクリックします。**

◆「PPPoE」接続の画面例

・「PPPoEマルチセッション」を選択した場合、PPPoE1とPPPoE2の2つのセッション情報を入力する画面が表示されますので、それぞれに必要な情報を入力します。

ユーザー名	プロバイダから指定されたユーザー名を入力します。フレッツサービスの場合は、@以降の識別子も含めて入力する必要があります。
パスワード	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。入力した文字は「•••••」で表示され読めませんので、入力ミスにご注意ください。
サービス名	プロバイダから指定があった場合に入力します。
MTU値	MTU(Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値(単位はバイト)の値(512～1492)を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値:1454)
IPアドレス	「Unnumbered PPPoE」接続を選択している場合のみ入力可能です。プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。
ネットマスク	「Unnumbered PPPoE」接続を選択している場合のみ入力可能です。プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
接続方法	インターネットへの接続方法を指定します。 常時接続：常にPPPoE接続を維持します。接続が切れた場合は自動的に再接続します。 自動再接続：パソコンからの接続要求があると自動的にPPPoE接続を開始します。 手動切替え：接続のたびにこの画面を表示して 接続 をクリックする必要があります。 切断 ：このボタンをクリックすると、インターネットへの接続を切断することができます。
アイドルタイムアウト	[接続方法]で「自動再接続」を選択している場合に設定可能です。ここで設定した時間中にパソコンからインターネットへの接続がなければ、自動的に接続を切断します。分単位で設定できます。

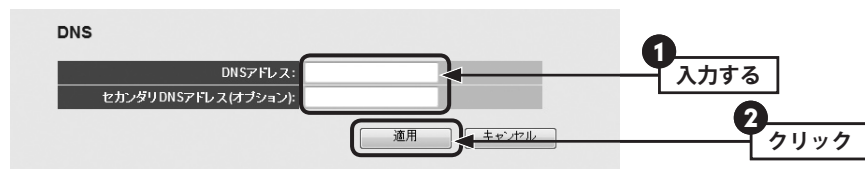
4 **「設定を保存しました！」と表示されます。**

●他の設定を続ける場合→ 戻る をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
●変更した設定を保存して有効にする場合→ 保存 をクリックし、手順 5 へ進みます。

5 **「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。**
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

DNSの設定

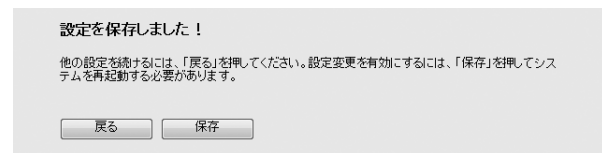
プロバイダによってDNSサーバのアドレスを自動取得できる場合と、あらかじめ手動で設定しなければならい場合があります。手動で設定する必要がある場合は、この画面でプロバイダから指定されたDNSアドレスを入力します。

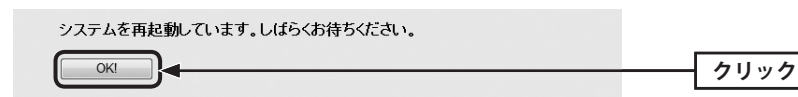
1 ［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［WAN側設定］→［DNS］を選択します。

・〈DNS〉画面が表示されます。

2 DNSアドレスを入力し、適用 をクリックします。

・アドレスは「192.168.2.1」というように「.」で区切って入力してください。

DNSアドレス	プロバイダからDNSアドレスの指示が1個しかない場合は、こちらにだけ入力します。指示が2個ある場合は、プライマリのDNSアドレスを入力します。
セカンダリDNSアドレス（オプション）	プロバイダからDNSアドレスの指示が2個ある場合は、こちらにセカンダリのDNSアドレスを入力します。

3 「設定を保存しました！」と表示されます。

●他の設定を続ける場合→ 戻る をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
●変更した設定を保存して有効にする場合→ 保存 をクリックし、手順 4 へ進みます。

4 「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

DDNS（ダイナミックDNS）の設定

ダイナミックDNSを利用すると、WAN側が固定IPアドレスでなくても、ホスト名を使ってサーバなどを利用できるようになります。この機能を利用するには、ダイナミックDNSのサービス提供者に登録する必要があります。ダイナミックDNSはサービスリストに表示されるサービスでご利用いただけます。

●あらかじめDDNSサービスに登録しておいてください

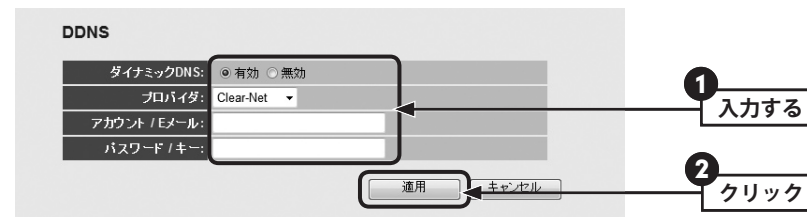
DDNSサイトにアクセスしてユーザー登録し、ドメイン名やアカウントなどを取得しておいてください。

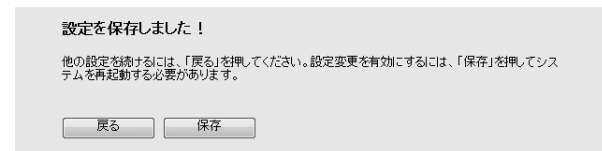
●DDNSサービスを利用するにあたって

- DDNSサービスへの登録については、弊社のサポート対象外となります。登録に関しては、一切責任を負いかねます。
- Clear-net（クリアネットサービス）とは、対象の弊社製品をユーザ登録してご利用いただいている方に無償で提供されるダイナミックDNSサービスです。クリアネットサービスへの登録については、弊社ホームページで詳細をご確認のうえ、ご利用ください。
- DDNSサービスによっては、定期的に更新をしないと登録が削除されてしまうことがあります。登録の更新は、本製品がインターネットに接続されているときに自動的におこなわれるほか、手動で更新する場合もあります。更新期間などの詳細はご利用になるDDNSサイトをご覧ください。

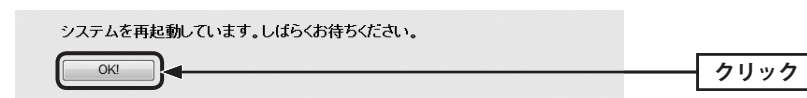
1 **［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［WAN側設定］→［DDNS］を選択します。**

・〈DDNS〉画面が表示されます。

2 **「ダイナミックDNS」の［有効］を選択し、必要な情報を設定します。設定が終われば 適用 をクリックします。**

ダイナミックDNS	［有効］を選択します。
プロバイダ	リストから登録したサービスを選択します。
ドメイン名	登録したドメイン名を入力します。
アカウント/Eメール	登録したアカウントを入力します。DDNSサービスによってはアカウントがEメールアドレスの場合があります。
パスワード/キー	設定したパスワードまたはキーを入力します。

3 **「設定を保存しました！」と表示されます。**

●他の設定を続ける場合→ 戻る をクリックします。引き続き他の項目を設定します。

●変更した設定を保存して有効にする場合→ 保存 をクリックし、手順 4 へ進みます。

4 **「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。**

2 LAN側の設定をする

本製品のLAN（ローカルネットワーク）側のIPアドレス情報、DHCPサーバに関する設定をします。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［LAN側設定］を選択します。

IPアドレスとDHCPサーバ機能の設定

LAN側設定

・LAN IP

IPアドレス	192.168.2.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバ	有効

・DHCPサーバ

リース時間	無制限
開始IPアドレス	192.168.2.100
終了IPアドレス	192.168.2.200
ドメイン名	

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず［適用］をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は［戻る］を、変更した内容をすぐに有効にする場合は［保存］をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●LAN IP

IPアドレス	本製品のLAN側のIPアドレスを入力します。初期値は「192.168.2.1」です。
サブネットマスク	使用中のネットワークのサブネットマスクを入力します。初期値は「255.255.255.0」です。
DHCPサーバ	DHCPサーバ機能を利用する場合は［有効］を選択します。IPアドレスを固定にする場合は［無効］を選択します。初期値は「有効」です。

●DHCPサーバ

リース時間	DHCPサーバによりクライアントに割り当てられるIPアドレスのリース時間を設定します。「無制限」に設定した場合、クライアントには継続的に同じIPアドレスが割り当てられます。
開始IPアドレス 終了IPアドレス	DHCPサーバ機能を利用する場合、DHCPサーバがクライアントに自動的に割り付けるIPアドレスの範囲を指定します。開始アドレス～終了アドレスの範囲でクライアントにIPアドレスが自動的に割り当てられます。
ドメイン名	DHCPサーバにドメイン名を与える場合に、ドメイン名を入力します。

固定DHCPリースの設定

DHCPサーバ機能を有効にしている場合、クライアントには自動的にIPアドレスが割り当てられます。しかし、クライアントのネットワーク機器によっては、特定のIPアドレスを割り当てたい場合があります。クライアントのMACアドレスと指定したいIPアドレスを関連付けて登録することでIPアドレスを固定することができます。

●固定DHCPリースリスト

NO.	登録番号です。最大16個までIPアドレスを登録できます。
MACアドレス	IPアドレスを固定したクライアントのMACアドレスです。
IPアドレス	クライアントに割り当てたIPアドレスです。
選択	登録内容を消去する場合にチェックします。
固定DHCPリースを有効	この項目をチェックしている場合に、固定DHCPリースリストの内容が有効になります。チェックしていない場合は、リストに登録されていてもIPアドレスは固定されません。
追加	リストに新たにIPアドレスを固定するクライアントを追加します。

●各ボタンの機能

選択項目を消去	［選択］をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
全て消去	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
リセット	［選択］のチェックをすべてクリアします。
追加	入力したクライアントの設定をリストに追加します。
消去	入力中の内容を消去します。

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

クライアントの登録方法

❶［固定DHCPリースを有効］をチェックします。
❷ クライアントのMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 123456789012
❸ クライアントに割り当てたいIPアドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.131
❹ 追加 をクリックします。固定DHCPリースリストにクライアントが追加されます。
❺ 登録するクライアントが複数ある場合は、❶〜❹を繰り返します。
※ 適用 をクリックして保存操作をしたのちに、設定が反映されます。

3 無線LANの設定をする

本製品の無線LAN機能を設定します。

無線LAN機能の有効/無効の設定

無線LAN機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［無線LAN設定］を選択します。

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

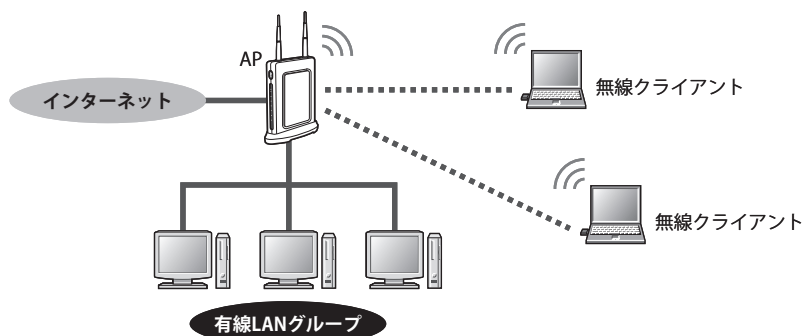
●無線設定

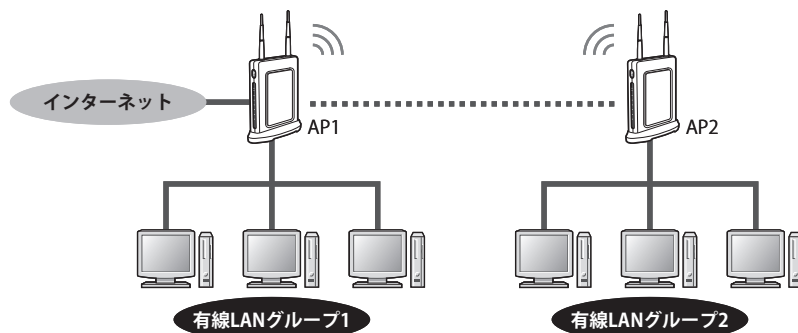
有効	無線LANに関する各種設定を有効にします。無線LAN機能が使用できます。
無効	無線LANの設定をすべて無効にします。無線LAN機能を使用できなくなります。

本製品で使用可能な通信モードについて

本製品で利用できる通信モードについて説明しています。必要に応じてお読みください。なお、ブリッジモードでの接続をサポートする相手の無線APは、LAN-WN12/RおよびLAN-WN22/Rだけです。

APモード

本製品の基本モードです。無線LAN機能を「無線LANアクセスポイント」として使用します。無線クライアントと通信できます。各項目の説明はP56「無線LANの基本設定」をお読みください。

AP Bridge-Point to Pointモード

本製品を1対1でブリッジ接続します。同じモードに設定されたもう1台の本製品と無線AP同士が直接通信します。AP1、AP2それぞれの本製品に接続された有線クライアント同士が、無線LANを経由して通信できます。このモードでは、本製品と無線クライアントとの間では通信できません。各項目の説明はP59「AP Bridge-Point to Pointモードで使う」をお読みください。

AP Bridge-Point to Multi-Pointモード

最大5台の無線AP同士をブリッジ接続できます。ブリッジ接続により、それぞれの無線APに接続された有線クライアント同士が無線APを経由して通信できます。このモードでは、本製品と無線クライアントとの間では通信できません。各項目の説明はP62「AP Bridge-Point to Multi-Pointモードで使う」をお読みください。

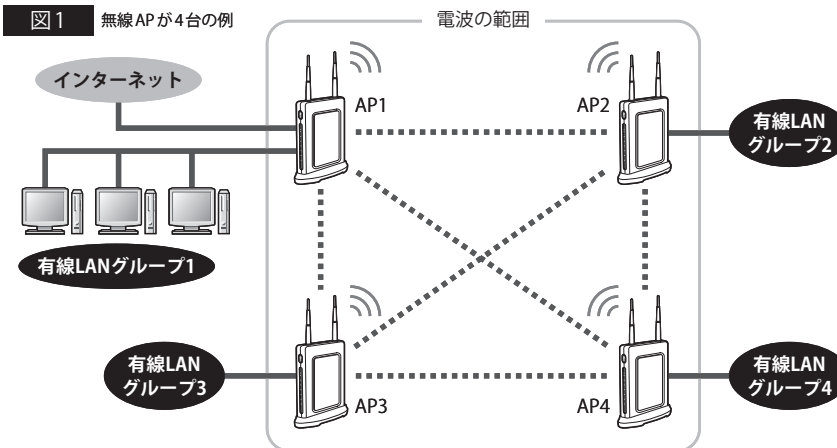
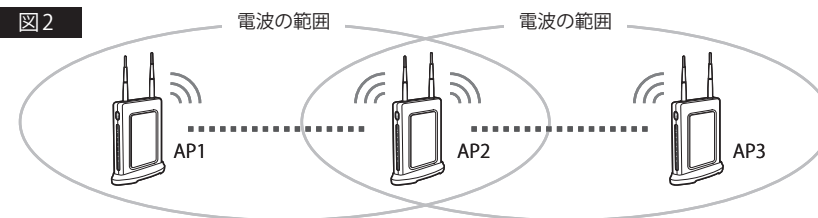



図1のようにAP1～AP4は、お互いが電波の届く範囲にあれば、それぞれのAP同士が直接通信することができます。また、図2のようにAP1とAP3が直接通信できない距離にある場合でも、AP1とAP3がそれぞれAP2と通信できる距離にあれば、AP1とAP3は、AP2を中継することで通信できます。

※図を分かりやすくするため、各無線APに接続されている有線LANグループを省略しています。

AP Bridge-WDSモード

本製品を最大5台のブリッジ接続が可能なうえ、無線APとしても使用できますので、それぞれの無線APに接続する無線クライアントとも通信できます。各項目の説明はP68「AP Bridge-WDSモードで使う」をお読みください。

注意

このモードは、本製品に負荷がかかり、通信速度が低下する場合があります。

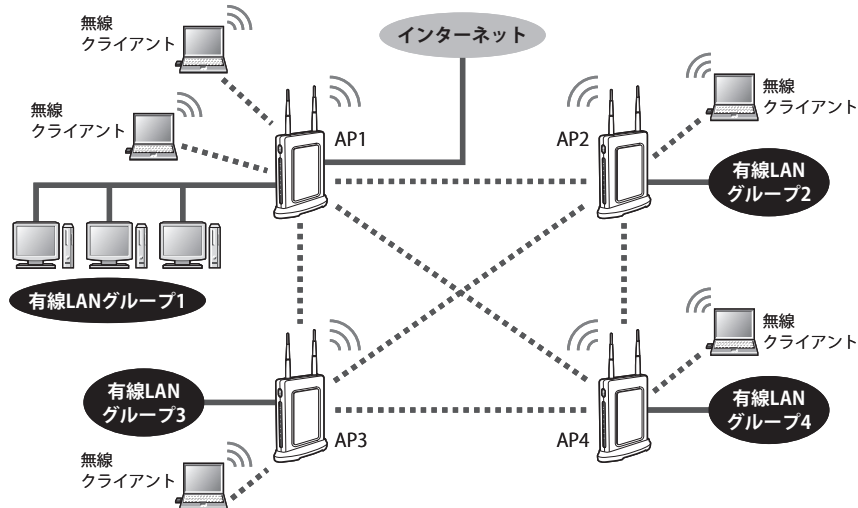
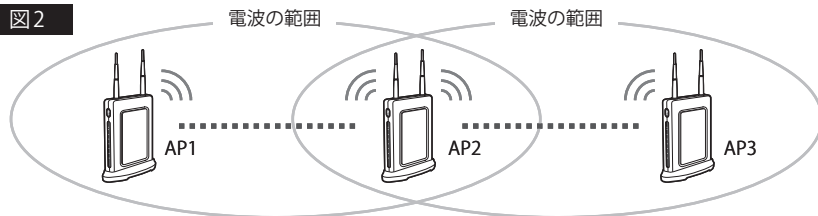
図1　無線APが4台の例

AP1～AP4は、お互いが電波の届く範囲にあれば、それぞれのAP同士が直接通信することができるほか、各無線APは、有線クライアントに加え、無線クライアントとも接続できます。また、図2のようにAP1とAP3が直接通信できる距離にない場合でも、AP1とAP3がそれぞれAP2と通信できる距離にあれば、AP1とAP3は、AP2を中継して通信することができます。
※図を分かりやすくするため、各無線APに接続されている有線LANグループを省略しています。

図2

ブリッジ接続による各モードでの設定の注意点

ここでは、本製品をルータ機能の使用の有無に関係なく、便宜上「無線AP」と表記しています。

●インターネットへの接続
ブリッジ接続上の複数の無線APで、インターネットに接続するのは、いずれか1台としてください。

●各無線APのIPアドレスの割り当て
インターネットに接続する無線APのみDHCP機能を「サーバ」として利用するように設定し、その他の無線APはDHCP機能を「無効」と設定したうえで、同一ネットワーク上の他の機器とIPアドレスが重ならないように、手動でIPアドレスを割り当ててください。

●設定用パソコンのIPアドレス
設定中に無線APと設定用パソコンを1対1で接続している場合などは、DHCP機能を「無効」に設定したあとも、設定用パソコンが設定ユーティリティに接続できるように、ご使用のネットワーク環境にあわせたIPアドレスを手動で割り当てておくことをお勧めします。パソコンのIPアドレスがDHCPサーバから自動取得になっている場合、無線APのIPアドレスを変更したあと、再接続できなくなることがあります。

●MACアドレスの設定
例えば、A、B、Cの3台の無線APでブリッジ接続する場合、無線AP「A」には、BとCのMACアドレスを、無線AP「B」には、AとCのMACアドレスというように、お互いに接続相手となる無線APのMACアドレスを登録してください。
MACアドレスは、設定ユーティリティ画面の左メニューから[ステータス]→[デバイス情報]→〈デバイス情報〉画面の[LAN設定]にある[MACアドレス]に表示されたMACアドレスを入力してください。

●ネットワークの設定
ブリッジ接続により、無線APに接続された有線クライアント同士がデータのやり取りをするには、別途、ネットワーク設定が必要です。無線AP同士が接続できても、異なるネットワークグループであれば、クライアント同士が接続することはできません。

●ブリッジ接続における各モードのセキュリティ設定
すべての無線APのブリッジ接続のセキュリティ設定は、すべての無線APで同一にしておく必要があります。

●AP Bridge-WDS モードのセキュリティ設定

AP Bridge-WDS モードでは、ブリッジ接続のセキュリティ設定（〈無線設定〉画面にある セキュリティ設定 をクリックして表示される設定画面の内容）と、無線AP⇔無線クライアント間のセキュリティ設定（[一般設定]→[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]の内容）を同一にする必要があります。さらに、これらのセキュリティ設定は、すべての無線APでも同一にする必要があります。このモードで使用されるセキュリティ設定の内容は、すべての無線AP上で1種類になるように注意してください。

無線LANの基本設定

無線LANの基本的な機能について設定します。無線LAN機能をどの通信モードで使用するかで設定内容が異なります。ここでは基本となる「APモード」について説明しています。他の通信モードについては、それぞれの説明ページをお読みください。

●AP Bridge-Point to Pointモードの場合→P59「AP Bridge-Point to Pointモードで使う」
●AP Bridge-Point to Multi-Pointモードの場合
→P62「AP Bridge-Point to Multi Pointモードで使う」
●AP Bridge-WDSモードの場合→P68「AP Bridge-WDSモードで使う」

[ホーム]で左のメニューリストから[一般設定]→[無線LAN設定]→[基本設定]を選択します。

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定の内容

項目		内容
通信モード		使用する通信モードを選択します。無線クライアントと通信する基本的な無線LAN機能を利用する場合は、「APモード」を選択します。その他のモードについては、P52「本製品で使用可能な通信モードについて」をお読みください。
帯域	2.4 GHz（B＋G＋N）	初期値です。IEEE802.11n（Draft）/11g/11bの3規格を使用します。
	2.4 GHz（B）	IEEE802.11b規格だけを使用します。
	2.4 GHz（N）	IEEE802.11n（Draft）規格だけを使用します。
	2.4 GHz（B＋G）	IEEE802.11g/11bの2規格を使用します。
	2.4 GHz（G）	IEEE802.11g規格だけを使用します。
SSID		無線LANで使用するSSIDを入力します。初期値ではパソコン用のSSID「logitecuser」と、ゲーム機用の「logitecgameuser」の2つが登録されています。 マルチSSID をクリックすることで、2つ目以降のSSIDを設定できます。最大4つのSSIDを登録し同時使用できます。設定方法についてはP58「マルチSSIDの設定」をお読みください。
チャンネル		使用するチャンネルを選択します。Autoまたは1〜11chの中から選択します。チャンネルの異なる複数の無線機器を使用する場合は5チャンネル以上離してください。Autoを選択すると、自動でチャンネルが設定されます。（例）1ch/6ch/11ch
関連クライアント		通信中のクライアントPCを表示する をクリックすると、無線LANで接続しているクライアントのリストが別ウィンドウで表示されます。
MACアドレス		ブリッジモードの3モードで表示されます。本製品とブリッジモードでアクセスする相手のMACアドレスを入力します。 「AP Bridge-Point to Pointモード」の場合は1台だけ、「AP Bridge-Point to Multi-Pointモード」と「AP Bridge-WDSモード」は4台まで登録することができます。
セキュリティ設定		ブリッジ接続でのセキュリティ設定をします。設定方法については、各モードのセキュリティ設定手順の説明（P61、P64、P70）をお読みください。

マルチSSIDのlogitecuserとlogitecgameuser

WPS機能を使ったパソコン用のセキュリティ設定を「WPA」、ゲーム機用のセキュリティには「WEP」が利用できるように2つのSSIDが用意されています。これにより、パソコンとゲーム機で異なるセキュリティ設定でも同時に接続できるようになっています。

SSID	内容
logitecuser	パソコン用のSSIDです。セキュリティ設定が初期値では「WEP」になっていますが、WPS機能を使って無線クライアントと接続した時点で「WPA」に変わります※1。無線クライアントとWPS機能を使わずに手動で初期値のまま設定するときは「WEP」での設定になります（→P34「手動設定で接続する」参照）。
logitecgameuser	ゲーム機と接続するためのSSIDです※2。セキュリティ設定が初期値で「WEP」になっています。パソコンの無線クライアントを本製品にWPS機能を使って接続しても「WEP」のままです。

※1 初期状態の場合。本製品に対し何らかの設定をおこなった場合、セキュリティ設定で設定される暗号方式で接続されます。
※2 このSSIDに対してWPS機能は使えません。

マルチSSIDの設定

本製品は、あらかじめ2個のSSIDが用意されていますが、このあとに説明する手順で最大4個のSSIDを登録することができます。「APモード」または「AP Bridge-WDSモード」を選択しているときに登録できます。

3個あるいは4個のSSIDを同時に使用する場合、本製品に負荷がかかり、通信速度が低下する場合があります。通常は、2個までの使用を推奨します。

〈マルチSSID〉画面では3個のSSIDを登録できます。基本となる1個目のSSIDは、〈基本設定〉画面での登録になります。

❶「無線LAN設定」の〈基本設定〉画面を表示します。
❷ マルチSSID をクリックします。
❸ 使用するSSID番号の[有効]をチェックします。
❹ [SSID]にSSIDを入力します。
❺ 必要に応じて高度な設定をします(→P74「無線LANの詳細設定」参照)。
❻ 設定が終われば 適用 をクリックします。
❼「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❽ OK をクリックします。
❾〈マルチSSID〉画面に戻りますので画面を閉じます。

AP Bridge-Point to Pointモードで使う

本製品を1対1でブリッジ接続します。同じモードに設定されたもう1台の本製品と無線AP同士が直接通信します。それぞれの無線APに接続された有線クライアント同士が、無線LANを経由して通信できます(→P52「AP Bridge-Point to Pointモード」)。このモードでは、無線APと無線クライアントとの間では通信できません。

注 意

ブリッジ接続のセキュリティ設定について

本モードのセキュリティ設定は、〈無線設定〉画面上にある セキュリティ設定 をクリックして表示される設定画面でおこないます。各無線APのセキュリティ設定は、すべて同じになるように設定してください。なお、[一般設定]→[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]は、無線AP⇔無線クライアントが通信するためのセキュリティ設定であり、本モードを使用する場合は設定不要です。

※[一般設定]→[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]についても設定している場合は、ブリッジ接続のセキュリティ設定内容が優先されます。

1 **設定を始める前に、ブリッジ接続の相手となる無線APのLAN側のMACアドレスをメモしておきます。**

❶ [ホーム]で左のメニューリストから[ステータス]→[デバイス情報]を選択します。
❷〈デバイス情報〉画面の[LAN設定]にある[MACアドレス]に表示されたMACアドレスをメモしておきます。

2 **[ホーム]で左のメニューリストから[一般設定]→[無線LAN設定]→[基本設定]を選択し、〈無線設定〉画面を表示します。**

3 **［モード］で「AP Bridge-Point to Point」を選択します。**

・AP Bridge-Point to Pointモードの設定項目に切り替わります。

4 **以下の内容を設定します。基本的な項目の内容については、P56「無線LANの基本設定」の項目説明をお読みください。**

❶［帯域］で、使用する帯域を選択します。
❷［チャンネル］で、1〜11の中から使用するチャンネルを選択します。接続相手の無線APのチャンネルも同じ設定にする必要があります。
❸［MACアドレス1］に、あらかじめメモしておいた接続相手のLAN側のMACアドレスを入力します。
❹このあとブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、手順 **5** へ進みます。セキュリティ機能を設定しない場合は、手順 **6** へ進みます。

5 **ブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、［セキュリティ設定］をクリックします。**

❶〈WDSセキュリティ設定〉画面が表示されますので、各項目を設定します。
・セキュリティ設定の項目については、P79「4. セキュリティを設定する（無線の暗号化）」を参照してください。
❷すべての設定が終われば、［適用］をクリックします。
❸「設定を保存しました！」と表示されますので［保存］をクリックします。
❹「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
［OK］にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば［OK］をクリックします。
❺〈WDSセキュリティ設定〉画面の［×］をクリックして画面を閉じます。

6 **〈無線設定〉画面の［適用］をクリックします。以下の手順で設定を保存します。**

❶「設定を保存しました！」と表示されますので［保存］をクリックします。
❷「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
［OK］にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば［OK］をクリックします。

7 **これで、AP Bridge-Point to Pointモードの設定は完了です。ブリッジ接続する相手の無線APに同じ設定をします。**

AP Bridge-Point to Multi-Point モードで使う

最大5台の無線AP同士をブリッジ接続できます。ブリッジ接続により、それぞれの無線APに接続された有線クライアント同士が無線APを経由して通信できます（→P53「AP Bridge-Point to Multi-Pointモード」）。このモードでは、本製品と無線クライアントとの間では通信できません。

注意

ブリッジ接続のセキュリティ設定について

本モードのセキュリティ設定は、〈無線設定〉画面上にある セキュリティ設定 をクリックして表示される設定画面でおこないます。各無線APのセキュリティ設定は、すべて同じになるように設定してください。なお、[一般設定]→[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]は、無線AP⇔無線クライアントが通信するためのセキュリティ設定であり、本モードを使用する場合は設定不要です。

※[一般設定]→[無線LAN設定]→[セキュリティ設定]についても設定している場合は、ブリッジ接続のセキュリティ設定内容が優先されます。

1　設定を始める前に、ブリッジ接続の相手となる無線APのLAN側のMACアドレスをメモしておきます。

❶［ホーム］で左のメニューリストから［ステータス］→［デバイス情報］を選択します。
❷〈デバイス情報〉画面の［LAN設定］にある［MACアドレス］に表示されたMACアドレスをメモしておきます。

2　［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［無線LAN設定］→［基本設定］を選択し、〈無線設定〉画面を表示します。

3　［モード］で「AP Bridge-Point to Multi-Point」を選択します。

・AP Bridge-Point to Multi-Pointモードの設定項目に切り替わります。

4　以下の内容を設定します。基本的な項目の内容については、P56「無線LANの基本設定」の項目説明をお読みください。

❶［帯域］で、使用する帯域を選択します。
❷［チャンネル］で、1〜11の中から使用するチャンネルを選択します。接続相手の無線APのチャンネルも同じ設定にする必要があります。
❸あらかじめメモしておいた接続相手のLAN側のMACアドレスを入力します。
❹このあとブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、手順 5 へ進みます。セキュリティ機能を設定しない場合は、手順 6 へ進みます。

5 **ブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、セキュリティ設定 をクリックします。**

❶〈WDSセキュリティ設定〉画面が表示されますので、各項目を設定します。
・ セキュリティ設定の項目については、P79「4. セキュリティを設定する（無線の暗号化）」を参照してください。
❷ すべての設定が終われば、適用 をクリックします。
❸「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❹「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。
❺〈WDSセキュリティ設定〉画面の ☒ をクリックして画面を閉じます。

6 **〈無線設定〉画面の 適用 をクリックします。以下の手順で設定を保存します。**

❶「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❷「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

7 **ブリッジ接続のセキュリティ設定と、無線AP⇔無線クライアント間のセキュリティ設定が異なっている場合は、以下の手順でセキュリティ設定が同一になるように設定します。すでに同一になっている場合は、手順 8 へ進みます。**

❶［一般設定］→［無線LAN設定］→［セキュリティ設定］を選択します。
❷〈セキュリティ設定〉画面が表示されますので、無線AP⇔無線クライアント間のセキュリティ機能を設定します。
❸ すべての設定が終われば、適用 をクリックします。
❹「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❺「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

8 **DHCP機能を有効にする無線APは、これで設定完了です。ブリッジ接続するその他の無線APは、それぞれにIPアドレスを割り当てる必要がありますので、次の手順に進みます。**

複数の無線APでブリッジ接続する場合

LAN設定にあるDHCP機能を「サーバ」で使用するのは1台だけにします。他の無線APはすべてDHCP機能を「無効」にして、手動でIPアドレスを割り当ててください。無線APのうち、いずれかがインターネットに接続している場合は、その無線APのDHCP機能を「サーバ」に設定してください。

※インターネットに接続している複数の本製品同士をブリッジ接続することはできません。

9 **1台を除き、DHCP機能を「無効」に設定します。［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［LAN側設定］を選択します。〈LAN側設定〉画面が表示されますので、以下の内容を設定します。**

❶ ご使用のネットワーク環境にあわせたIPアドレスを［IPアドレス］に入力します。
・ IPアドレスが他のネットワーク機器や、DHCPサーバの割り当て範囲と重ならないように注意してください。
❷［DHCPサーバ］を［無効］にします。

10 **適用 をクリックします。以下の手順で設定を保存します。**

❶「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❷「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

11 **Webブラウザのアドレス欄に、手動設定したIPアドレスを入力し、設定ユーティリティに接続します。**

設定用のパソコンがDHCPサーバ機能によりIPアドレスを自動取得するように設定している場合、DHCP機能を「無効」にしたことにより、設定ユーティリティに接続できなくなることがあります。設定ユーティリティに接続する場合は、設定用パソコンのIPアドレスを手動で割り当て直してください。

12 **ホームで左のメニューリストから［一般設定］→［LAN側設定］を選択します。〈LAN側設定〉画面が表示されますので、内容が正しく変更されているかを確認します。**

13 **これで、AP Bridge-Point to Multi-Pointモードの設定は完了です。ブリッジ接続する他の無線APを同様に設定します。**

・すべての無線APの設定が正しくできていることが確認できれば、すべての機器の電源が入った状態で、クライアントからインターネットまたは共有ファイルに接続できることを確認します。

AP Bridge-WDSモードで使う

本製品を最大5台のブリッジ接続が可能なうえ、無線APとしても使用できますので、それぞれの無線APに接続する無線クライアントとも通信できます（→P54「AP Bridge-WDSモード」）。

●本モードをご使用の場合
本モードは、本製品に負荷がかかり、通信速度が低下する場合があります。

●本モードでのセキュリティ設定について
本モードの場合、ブリッジ接続する無線AP間の通信で使用するセキュリティ設定と、無線AP⇔無線クライアントが通信するセキュリティ設定を同一にする必要があります。それぞれで異なるセキュリティ機能を設定することはできません。
本モードで使用するすべての無線APのセキュリティ設定が、ブリッジ接続、無線クライアント接続も含めて、すべて同一になるように設定してください。

1 **設定を始める前に、ブリッジ接続の相手となる無線APのLAN側のMACアドレスをメモしておきます。**

❶［ホーム］で左のメニューリストから［ステータス］→［デバイス情報］を選択します。
❷〈デバイス情報〉画面の［LAN設定］にある［MACアドレス］に表示されたMACアドレスをメモしておきます。

2 **［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［無線LAN設定］→［基本設定］を選択し、〈無線設定〉画面を表示します。**

3 **［モード］で「AP Bridge-WDS」を選択します。**

・AP Bridge-WDSモードの設定項目に切り替わります。

4 **以下の内容を設定します。基本的な項目の内容については、P56「無線LANの基本設定」の項目説明をお読みください。**

❶［帯域］で、使用する帯域を選択します。
❷［チャンネル］で、1〜11の中から使用するチャンネルを選択します。接続相手の無線APのチャンネルも同じ設定にする必要があります。
❸あらかじめメモしておいた接続相手のLAN側のMACアドレスを入力します。
❹このあとブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、手順 **5** へ進みます。セキュリティ機能を設定しない場合は、手順 **6** へ進みます。

5 **ブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、 セキュリティ設定 をクリックします。**

❶〈WDSセキュリティ設定〉画面が表示されますので、各項目を設定します。
・ セキュリティ設定の項目については、P79「4. セキュリティを設定する（無線の暗号化）」を参照してください。
❷ すべての設定が終われば、 適用 をクリックします。
❸「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❹「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。
❺〈WDSセキュリティ設定〉画面の ☒ をクリックして画面を閉じます。

セキュリティ設定について
本モードでは、ブリッジ接続による無線APのセキュリティ設定と、無線クライアント⇔無線AP間のセキュリティ設定は同一の設定にする必要があります。
ここでの設定が、［無線LAN設定］→［セキュリティ設定］のセキュリティ設定が同一になるようしてください。

6 **〈無線設定〉画面の 適用 をクリックします。以下の手順で設定を保存します。**

❶「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❷「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

7 **ブリッジ接続のセキュリティ設定と、無線AP⇔無線クライアント間のセキュリティ設定が異なっている場合は、以下の手順でセキュリティ設定が同一になるように設定します。すでに同一になっている場合は、手順 8 へ進みます。**

❶［一般設定］→［無線LAN設定］→［セキュリティ設定］を選択します。
❷〈セキュリティ設定〉画面が表示されますので、無線AP⇔無線クライアント間のセキュリティ機能を設定します。
❸ すべての設定が終われば、 適用 をクリックします。
❹「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。
❺「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

8 **DHCP機能を有効にする無線APは、これで設定完了です。ブリッジ接続するその他の無線APは、それぞれにIPアドレスを割り当てる必要がありますので、次の手順に進みます。**

複数の無線APでブリッジ接続する場合

LAN設定にあるDHCP機能を「サーバ」で使用するのは1台だけにします。他の無線APはすべてDHCP機能を「無効」にして、手動でIPアドレスを割り当ててください。無線APのうち、いずれかがインターネットに接続している場合は、その無線APのDHCP機能を「サーバ」に設定してください。

※インターネットに接続している複数の本製品同士をブリッジ接続することはできません。

9 **1台を除き、DHCP機能を「無効」に設定します。［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［LAN側設定］を選択します。〈LAN側設定〉画面が表示されますので、以下の内容を設定します。**

❶ ご使用のネットワーク環境にあわせたIPアドレスを［IPアドレス］に入力します。

・ IPアドレスが他のネットワーク機器や、DHCPサーバの割り当て範囲と重ならないように注意してください。

❷ ［DHCPサーバ］を［無効］にします。

10 **適用 をクリックします。以下の手順で設定を保存します。**

❶「設定を保存しました！」と表示されますので 保存 をクリックします。

❷「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

11 **Webブラウザのアドレス欄に、手動設定したIPアドレスを入力し、設定ユーティリティに接続します。**

設定用のパソコンがDHCPサーバ機能によりIPアドレスを自動取得するように設定している場合、DHCP機能を「無効」にしたことにより、設定ユーティリティに接続できなくなることがあります。設定ユーティリティに接続する場合は、設定用パソコンのIPアドレスを手動で割り当て直してください。

12 **ホームで左のメニューリストから［一般設定］→［LAN側設定］を選択します。〈LAN側設定〉画面が表示されますので、内容が正しく変更されているかを確認します。**

13 **これでAP Bridge-WDSモードの設定は終わりです。ブリッジ接続する他の無線APを同様に設定します。**

・すべての無線APの設定が正しくできていることが確認できれば、すべての機器の電源が入った状態で、クライアントからインターネットまたは共有ファイルに接続できることを確認します。

無線LANの詳細設定

無線LANの高度なオプション機能を設定できます。これらの設定には無線LANに関する十分な知識が必要です。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［無線LAN設定］→［詳細設定］を選択します。

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず ［適用］ をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は ［戻る］ を、変更した内容をすぐに有効にする場合は ［保存］ をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●詳細設定　各項目の数値に指定可能な範囲がある場合は、数値の右側にカッコで表示しています。

項目	説明
フラグメントしきい値	フラグメントしきい値を設定します。パケットが設定サイズを超えた場合に分割して送信します。（初期値：2346）
RTSしきい値	本製品がRTS（送信要求）信号を送信するパケットサイズを設定します。（初期値：2347）
ビーコン間隔	本製品が送信するビーコンフレームの送信間隔を設定します。（初期値：100）
DTIM	ビーコン間隔に対して、どの程度の割合でDTIMを送信するかを設定します。例えば、ビーコン間隔が「100ms」でDTIMを「3」に設定した場合は、300ms間隔でDTIMが含まれるビーコンを送信することになります。（初期値：3）
データレート	11g/11b規格の通信における伝送速度を設定します。「Auto」に設定しておくと、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。（初期値：Auto）
Nデータレート	11n（Draft）規格の通信における伝送速度を設定します。「Auto」に設定しておくと、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。（初期値：Auto）
チャンネル幅	11n（Draft）規格でのチャンネル幅を設定します。11n（Draft）対応の無線クライアントと接続する場合、「Auto 20/40MHz」に設定することで伝送速度を速くすることができます。ただし、他の無線LANとの干渉などによっては、伝送速度が変わらない場合もあります。
プリアンブルタイプ	無線通信の同期をとるプリアンブル信号の種類（長さ）を選択します。ショートプリアンブルのほうが伝送速度を速くすることができます。ただし、古いタイプの無線クライアントを使用する場合などは、互換性を確保するために「ロングプリアンブル」を選択します。（初期値：ショートプリアンブル）
ブロードキャストSSID	「有効」の場合は、クライアント側の設定ユーティリティなどから本製品に設定したSSIDを確認することができます。「無効」にした場合は、クライアント側の設定ユーティリティなどで、本製品のSSIDを表示できなくなります。 不正アクセスを防ぐためや、SSIDを第三者に見せたくない場合などに「無効」にします。（初期値：有効）
CTSプロテクト	11gと11bを併用する場合に11bの帯域を確保するかを設定します。（初期値：なし） 自動：状況に応じて帯域を確保します。 常時：常に11bの帯域を確保します。 なし：11bのために十分な帯域を確保しません。
送信パワー	電波の出力強度を調整できます。電波が遠くまで飛びすぎる場合に、環境にあわせて強度を設定します。（初期値：100%）
ターボモード	電波強度を高めます。（初期値：有効）
WMM	WMM（Wi-Fi Multimedia）により安定したストリーミング通信をするための帯域を優先的に確保するかを設定します。（初期値：無効）

アクセスコントロールの設定（MACアドレスフィルタ）

登録したMACアドレスを持つ無線クライアントとだけ無線LANで通信できるようにします。第三者の無線クライアントからの不正アクセスを防止するのに役立ちます。特定の無線クライアントとの接続を拒否したい場合や、有線LANのクライアントの本製品へのアクセスの許可/拒否はP102「アクセスコントロールの設定」で設定してください。

画面の表示 **［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［無線LAN設定］→［アクセスコントロール］を選択します。**

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず［適用］をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は［戻る］を、変更した内容をすぐに有効にする場合は［保存］をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●MACアドレステーブル

NO.	登録番号です。同時に登録できるMACアドレスは20セットまでです。
MACアドレス	本製品に無線LANでアクセスすることを許可するクライアントのMACアドレスです。
コメント	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。
選択	登録内容を消去する場合にチェックします。
無線アクセスフィルタを有効にする。	この項目をチェックしている場合に、MACアドレステーブルに登録したMACアドレスを持つクライアントだけが無線LANで接続できます。
新規	リストにクライアントを登録します。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	［選択］をチェックしたクライアントをリストから削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。
すべてを削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。
リセット	［選択］のチェックをすべてクリアします。
追加	入力したクライアントの設定をリストに追加します。
消去	入力中の内容を消去します。

クライアントの登録方法

❶［無線アクセスフィルタを有効にする。］をチェックします。
❷ クライアントのMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 1234567890gh
❸ クライアントを区別するための名称など、コメントを自由に入力することができます。
❹［追加］をクリックします。MACアドレステーブルに無線クライアントが追加されます。
❺ 登録するクライアントが複数ある場合は、❶〜❹を繰り返します。

※［適用］をクリックして保存操作をしたのちに、設定が反映されます。

WPS 機能の設定

WPS（Wi-Fi Protected Setup）機能の設定をします。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［無線 LAN 設定］→［WPS］を選択します。

WPS（Wi-Fi Protected Setup）設定

WPS機能の設定を変更します。

☑ WPS機能を有効にする

• WPS設定ステータス

WPSステータス：	Configured
PINコード:	99999999
SSID	logitecuser
認証モード	WPA pre-shared key
パスフレーズキー	**********

• デバイス設定

モード設定:	Registrar	
プッシュボタンを使用:	実行	
PINコードを入力:		実行

●WPS 機能を有効にする

WPS 機能を使用する場合はチェックします。（初期値：有効）

●WPS 設定ステータス

WPS 機能を実行したときに反映される設定内容を表示します。

●デバイス設定

モード設定	本製品側で無線アダプタの PIN コードにあわせる場合は「Registrar」を、無線アダプタ側で本製品の PIN コードにあわせる場合は「Enrollee」を選択します。（初期値：Registrar）
プッシュボタンを使用	実行 をクリックすることで、WPS 機能を実行できます。本製品の本体に装備された「WPS 設定ボタン」を押すのと同じことです。
PIN コードを入力	本製品側で無線アダプタの PIN コードにあわせる場合に、ここに無線アダプタ側の PIN コードを入力し、実行 をクリックします。

4 セキュリティを設定する（無線の暗号化）

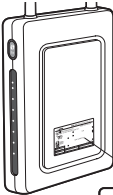
無線 LAN で使用するデータの暗号化などのセキュリティの設定方法について説明します。

設定可能な暗号化セキュリティ機能

WEP	無線 LAN の普及期からある暗号化方式です。本製品は 64bit と 128bit の 2 種類の暗号強度が選択できます。ご利用の無線 LAN 環境で「WPA プレシェアードキー」が使用可能な場合は、そちらを使用することをお勧めします。
WPA プレシェアードキー（WPA-PSK）	新しい暗号化方式です。データの暗号化だけでなく認証機能も含まれた二重のセキュリティ機能です。WEP よりも高度な暗号化方式で、パソコンを使う無線 LAN のセキュリティ機能の主流となっています。
WPA RADIUS	専用の RADIUS 認証サーバを用意することで、クライアントがネットワークに接続するための認証手段を厳格におこなうことができます。おもにビジネスユースで利用されています。

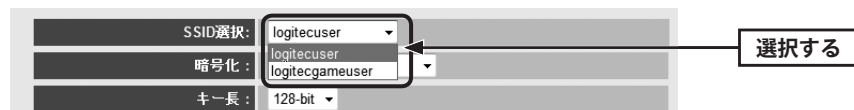
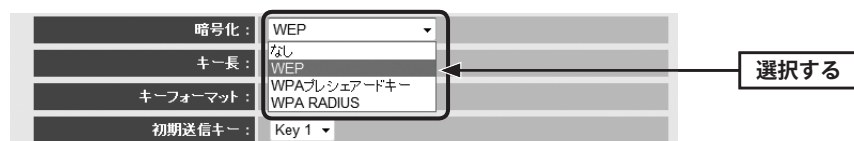
WEP の設定

無線通信の暗号化セキュリティに「WEP」を使用します。本製品のセキュリティ設定の初期値は「WEP（128bit ASCII）」になっています。設定値は次ページのとおりです。

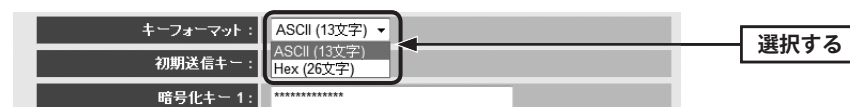
本製品および本製品に接続する、すべての無線クライアントは、各項目の設定値がすべて同一になっている必要があります。設定が一部でも異なっていると無線 LAN を利用できません。

◆WEP 選択時の設定画面

●本製品のセキュリティ設定の初期値

項目	本製品の設定値（初期値）
SSID	logitecuser
認証方式	Open
暗号化方式	WEP（128bit ASCII）
WEPキーNo.	Key1
WEP KEY	本製品の右側面にあるシールの「WEP KEY」に記載された半角英数字です。大文字と小文字が区別されますので正確に入力してください。 ※記載の文字列は一例です。 MAC:000000-000000 WEP KEY:1234567890ABC

WPS機能を使用した場合
パソコンの無線クライアントと接続するためにWPS機能を使用した場合は、本製品のWPS設定ボタンを押した時点で「WPA」に自動的に変更されています。

設定の手順

本製品および本製品に接続する、すべての無線クライアントは、各項目の設定値がすべて同一になっている必要があります。設定が一部でも異なっていると無線LANを利用できません。

1 ［SSID選択］で、セキュリティ設定をする「SSID」を選択します。

2 ［暗号化］で、［WEP］を選択します。

3 ［キー長］でbit数を選択します。通常は128bitを選択します。

ご使用になる無線クライアントが64bitにしか対応していない場合などは、64bitを選択します。ご使用になる無線クライアントに1台でも64bitにしか対応していないものがある場合は、64bitしか使用できません。なお、64bitはセキュリティ性が低くお勧めできませんので、なるべく使用しないでください。

4 ［キーフォーマット］で暗号化キーの入力形式を選択します。

・ここで選択した形式の文字列で暗号化キーを設定します。

ASCII（5文字）	キー長で64bitを選択した場合です。［暗号化キー］に、半角英数字5文字を入力します。
ASCII（13文字）	キー長で128bitを選択した場合です。［暗号化キー］に、半角英数字13文字を入力します。
Hex（10文字）	キー長で64bitを選択した場合です。［暗号化キー］に、16進数10文字を入力します。
Hex（26文字）	キー長で128bitを選択した場合です。［暗号化キー］に、16進数26文字を入力します。

※16進数とは、0～9、a-fを組み合わせた文字列です。

5 ［初期送信キー］で使用する暗号化キーのキー番号を選択します。

・暗号化キーは、1～4までの4種類を登録しておくことができます。そのうちのどのキーを実際の無線LANで使用するかを選択します。

6 ［暗号化キー］のうち、手順 **5** で選んだキー番号に、手順 **4** で選んだ入力形式で、文字列を入力します。

・ASCIIの場合は大文字と小文字が区別されます。Hexの場合は大文字と小文字は区別されません。

7 オフィスユースなどで「802.1x認証」を使用している場合は、［802.1x認証を有効］をチェックします。

・ホームユースなど通常はオフのまま変更しないでください。

8 すべての設定が終われば 適用 をクリックします。

9 「設定を保存しました！」と表示されます。

●他の設定を続ける場合→ 戻る をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
●変更した設定を保存して有効にする場合→ 保存 をクリックし、手順 10 へ進みます。

10 「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

11 これで本製品のWEPによるセキュリティ設定は完了です。同じ設定を無線クライアント側にも設定してください。

・無線クライアント側の設定方法は、無線クライアントの説明書をお読みください。

WPAプレシェアードキーの設定

WPAプレシェアードキー（WPA-PSK）を使ってセキュリティ設定をします。WPA2-PSK/WPA-PSKは、小規模なネットワークでも安全度の高いセキュリティを簡単に実現できます。設定にあたっては、あらかじめ「共有キー」を決めておいてください。

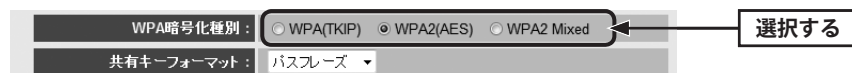
本製品および本製品に接続する、すべての無線クライアントは、各項目の設定値がすべて同一になっている必要があります。設定が一部でも異なっていると無線LANを利用できません。

◆WPA-PSK選択時の設定画面

1 ［SSID選択］で、セキュリティ設定をする「SSID」を選択します。

2 ［暗号化］で、［WPAプレシェアードキー］を選択します。

3 ［WPA暗号化種別］で、暗号化の種別を選択します。

注意

ご使用になる無線クライアントが対応している種別を選択します。本製品はWPA-PSKの場合は「TKIP」のみになります。

WPA-PSK（TKIP）	WPA-PSKのうち暗号化形式に「TKIP」を使用します。本製品はWPA-PSKについては「AES」を選択できません。
WPA2-PSK（AES）	WPA2-PSKのうち暗号化形式に「AES」を使用します。
WPA2-PSK（Mixed）	無線クライアントにWPA-PSK（「AES」または「TKIP」）とWPA2-PSK（「AES」または「TKIP」）が混在している場合でも、この項目を選択しておくといずれの無線クライアントとも接続できます。また、無線クライアントがすべて「WPA2-PSK（TKIP）」の場合も、こちらを選択します。

4 ［共有キーフォーマット］で、共有キーの入力形式を選択します。

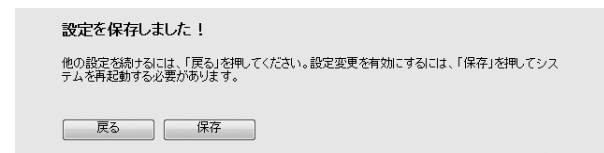
パスフレーズ	半角英数字（8〜63文字）を使用できます。
Hex（64文字）	16進数64文字（固定）を使用できます。

※16進数とは、半角英数字の0〜9、a-fを組み合わせた文字列です。

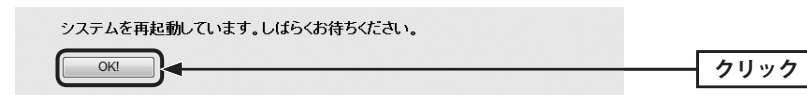
5 ［共有キー］に、手順 **4** で選択した入力形式で文字列を入力します。

パスフレーズ	半角英数字（8〜63文字）を入力します。大文字と小文字が区別されます。
Hex（64文字）	16進数64文字を入力します。64文字固定です。大文字と小文字は区別されません。

6 すべての設定が終われば 適用 をクリックします。

7 「設定を保存しました！」と表示されます。

●他の設定を続ける場合→ 戻る をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
●変更した設定を保存して有効にする場合→ 保存 をクリックし、手順 **8** へ進みます。

8 「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。

OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

9 **これで本製品のWPAによるセキュリティ設定は完了です。同じ設定を無線クライアント側にも設定してください。**

・無線クライアント側の設定方法は、無線クライアントの説明書をお読みください。

WPA RADIUSの設定

ビジネスユースなどでRADIUS認証サーバを利用している場合に設定します。設定が終われば、適用 をクリックします。メッセージに従って設定を保存し、再起動してください。

◆WPA RADIUS選択時の設定画面

SSID選択		セキュリティ設定の対象となるSSIDを選択します。
暗号化		WPA RADIUSを選択します。
WPA暗号化種別	WPA-PSK（TKIP）	WPA-PSKのうち暗号化形式に「TKIP」を使用します。本製品はWPA-PSKについては「AES」を選択できません。
	WPA2-PSK（AES）	WPA2-PSKのうち暗号化形式に「AES」を使用します。
	WPA2-PSK（Mixed）	無線クライアントにWPA-PSK（「AES」または「TKIP」）とWPA2-PSK（「AES」または「TKIP」）が混在している場合でも、この項目を選択しておくといずれの無線クライアントとも接続できます。また、無線クライアントがすべて「WPA2-PSK（TKIP）」の場合も、こちらを選択します。
RadiusサーバIPアドレス		RADIUSサーバのIPアドレスを指定します。
Radiusサーバポート		RADIUSサーバのポート番号を指定します。（初期値：1812）
Radiusサーバパスワード		RADIUSサーバのパスワードを入力します。

5 QoSを設定する

QoS（Quality of Service）は特定の通信について、あらかじめ使用する帯域を予約しておくことで、その通信の速度を保証する機能です。例えばストリーミングのように一定の転送速度が確保されないと実用的でないようなサービスを利用するときに有効です。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［QoS］を選択します。

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●WAN側QoSを有効

QoS機能を使用する場合はチェックします。（初期値：無効）

ダウンロード帯域幅	ダウンロードで確保する全体の帯域幅を入力します。
アップロード帯域幅	アップロードで確保する全体の帯域幅を入力します。

●現在のQoSテーブル

設定したルールのリストが表示されます。リストの上位にあるルールのほうが優先度が高く、割り当てられた全体の帯域幅から優先的に割り当てることができます。

●各ボタンの機能

追加	新しいルールを設定します。
編集	[選択]をチェックしたルールを編集できます。
選択項目を削除	[選択]をチェックしたルールをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
すべて削除	リストのルールをすべて削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
上へ移動	[選択]をチェックしたルールの優先度を上に移動します。
下へ移動	[選択]をチェックしたルールの優先度を下に移動します。
リセット	[選択]のチェックを一括してオフにできます。

ルールの作成方法

具体的なルールを設定します。

❶ 追加 をクリックします。
❷ ルールの内容を設定します。項目の内容については以下の一覧を参照してください。
❸ 設定が終われば、保存 をクリックします。QoSのメイン画面に戻り、作成したルールがQoSテーブルに表示されます。
・ QoSテーブルに新しいルールが表示されない場合は、ブラウザの[更新]ボタンをクリックしてください。

ルール名	管理しやすい名称を、半角英数字で任意に入力できます。
帯域幅	ダウンロードかアップロードかの設定、帯域幅、最低帯域保証（guarantee）か最大帯域（max）かの設定をします。
ローカルIPアドレス	このルールを適用するクライアントのIPアドレス範囲を入力します。対象が1台の場合は左側だけに入力します。
ローカルポート範囲	このルールを適用するクライアントのローカルポート範囲を入力します。対象が1台の場合は左側だけに入力します。
Remote IP Address	このルールを適用するWAN側のIPアドレス範囲を入力します。対象が1台の場合は左側だけに入力します。
Remote Port Range	このルールを適用するWAN側のポート範囲を入力します。対象が1台の場合は左側だけに入力します。
トラフィック形式	使用するトラフィック形式をリストから選択します。
プロトコル	使用するプロトコルをリストから選択します。

6 NAT機能を設定する

本製品のNAT機能について設定します。NAT機能の設定には、NATやNAT機能を使ったさまざまなサービスについての知識が必要になります。設定を変更する場合は十分にご注意ください。

NAT機能の有効/無効の設定

NAT機能およびFast-NAT機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［NAT］を選択します。

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●NAT設定

NAT機能	NAT（Network Address Translation）機能の有効/無効を設定します。（初期値：有効）
Fast-NAT機能	Fast-NAT機能の有効/無効を設定します。（初期値：無効）

ポート転送の設定

ポート転送（ポートフォワード）機能を設定します。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN（インターネット）側からLAN上のコンピュータにアクセスすることはできませんが、この機能を利用することで、LAN上にある指定されたコンピュータをWAN側に開放することができます。

この機能を利用する場合で本製品のDHCPサーバ機能を有効にしているときは、P49「LAN側の設定をする」の「固定DHCPリース」機能を使ってIPアドレスを固定するようにしてください。DHCPサーバ機能により動的にIPアドレスが変更されると、意図しないコンピュータがWAN側に開放される恐れがあります。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［NAT］→［ポート転送］を選択します。

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●ポート転送を有効にする

ポート転送機能を使用する場合はチェックします。（初期値：無効）

●入力・設定画面の内容

ローカルIP	ポート転送をするコンピュータのローカルIPアドレスを入力します。右の「Computer name」を選択して自動的にIPアドレスを入力することもできます。
Computer name	本製品にアクセスしているクライアントのコンピュータ名をプルダウンメニューで表示しますので、ポート転送をするコンピュータ名を選択します。 [<<] をクリックすると自動的にそのコンピュータのIPアドレスが設定されます。
タイプ	プロトコルを選択します。（初期値：両方）
ポート範囲	インターネット側から見た送信先のポート番号の範囲を入力します。
インターフェイス	接続するセッションを「WAN1」「WAN2」から選択します。（初期値：WAN1）
備考	メモなど任意の文字を入力できます。

●現在のポート転送リスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したコンピュータの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

追加	入力したコンピュータの設定をリストに追加します。
リセット	入力中の内容をクリアします。
選択項目を削除	[選択]をチェックしたコンピュータの設定をリストから削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 [OK] をクリックします。
すべて削除	リストのコンピュータの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 [OK] をクリックします。
リセット	[選択]のチェックをすべてクリアします。

コンピュータの登録方法

❶ [ポート転送を有効にする] をチェックします。
❷ [Computer name]のプルダウンメニューでコンピュータ名を選択し、 [<<] をクリックすると、[ローカルIP]に自動的にIPアドレスが入力されます。
また、[ローカルIP]に、コンピュータの（ローカル）IPアドレスを直接入力することもできます。その場合「.」で区切る必要があります。例 192.168.2.141
❸ [タイプ]に、プロトコルのタイプを選択します。
❹ [ポート範囲]に、インターネット側から見た送信先のポート番号の範囲を入力します。
❺ [インターフェイス]に、接続するセッションを「WAN1」「WAN2」から選択します。
❻ 必要に応じて[備考]に、コメントを入力します。
❼ [追加] をクリックします。現在のポート転送リストにコンピュータが追加されます。
❽ 登録するコンピュータが複数ある場合は、❶～❼を繰り返します。

※ [適用] をクリックして保存操作をしたのちに、設定が反映されます。

特殊アプリケーションの設定

ネットワークタイプのアプリケーションでは、LAN上のコンピュータのポートの一部を開放しないと使用できない場合があります。特殊アプリケーションの設定機能を使うと、使用したいアプリケーションの設定が簡単にできます。

この機能を利用する場合で本製品のDHCPサーバ機能を有効にしているときは、P49「LAN側の設定をする」の「固定DHCPリース」機能を使ってIPアドレスを固定するようにしてください。DHCPサーバ機能により動的にIPアドレスが変更されると、意図しないコンピュータがWAN側に開放される恐れがあります。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［NAT］→［特殊アプリケーション］を選択します。

特殊アプリケーション

☐ 有効

IPアドレス	Computer name	TCP	UDP	備考
0.0.0.0	<< ---------Select--------			
アプリケーション名		Select Game	追加	

追加　リセット

現在の特殊アプリケーションリスト

NO.	Computer name	IPアドレス	TCP	UDP	備考	選択
1	OFFLINE	192.168.2.145	25,80,110,443,50000-65535	50000	Final Fantasy XI (PC)	☐

選択項目を削除　すべて削除　リセット

適用　キャンセル

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず［適用］をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は［戻る］を、変更した内容をすぐに有効にする場合は［保存］をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●有効

特殊アプリケーション機能を使用する場合はチェックします。（初期値：無効）

●入力・設定画面の内容

項目	内容
IPアドレス	特殊アプリケーション機能を利用するコンピュータのローカルIPアドレスを入力します。右の「Computer name」を選択して自動的にIPアドレスを入力することもできます。
Computer name	本製品にアクセスしているクライアントのコンピュータ名をプルダウンメニューで表示しますので、ポート転送をするコンピュータ名を選択します。［<<］をクリックすると自動的にそのコンピュータのIPアドレスが設定されます。
TCP	TCPに開放するポート番号です。アプリケーションを選択すると自動的に設定値が入力されます。修正することもできます。
UDP	UDPに開放するポート番号です。アプリケーションを選択すると自動的に設定値が入力されます。修正することもできます。
備考	選択したアプリケーション名が表示されます。修正することもできます。

●アプリケーション名

プルダウンメニューからアプリケーションを選択し、［追加］をクリックします。TCP、UDP、備考に自動的に設定値が入力されます。

●現在の特殊アプリケーションリスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。［選択］は、登録したコンピュータの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

ボタン	機能
追加	入力したコンピュータの設定をリストに追加します。
リセット	入力中の内容をクリアします。
選択項目を削除	［選択］をチェックしたコンピュータの設定をリストから削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。
すべて削除	リストのコンピュータの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。
リセット	［選択］のチェックをすべてクリアします。

コンピュータの登録方法

❶ [有効] をチェックします。
❷ [Computer name]のプルダウンメニューでコンピュータ名を選択し、 << をクリックすると、[ローカルIP]に自動的にIPアドレスが入力されます。
また、[ローカルIP]に、コンピュータの（ローカル） IPアドレスを直接入力することもできます。その場合「.」で区切る必要があります。例 192.168.2.141
❸ [アプリケーション名]のプルダウンメニューから、使用するアプリケーション名を選択し、右側にある 追加 （❶）をクリックします。TCP、UDP、備考が自動的に入力されます。
❹ 必要に応じてTCP、UDP、ポート範囲は備考の内容を修正します。
❺ アプリケーション名の項目名の下にある 追加 （❷）をクリックします。
・ 現在の特殊アプリケーションリストにコンピュータが追加されます。
❻ 登録するコンピュータが複数ある場合は、❶〜❺を繰り返します。
※ 適用 をクリックして保存操作をしたのちに、設定が反映されます。

UPnP機能の有効/無効の設定

UPnP（Universal Plug and Play）機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

[ホーム] で左のメニューリストから [一般設定] → [NAT] → [UPnP設定] を選択します。

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●UPnP機能

UPnP機能	UPnP（Universal Plug and Play）機能の有効/無効を設定します。UPnPを有効にすると、UPnP対応OSでUPnP対応ネットワーク機器を使用した場合に、自動的にLAN内の装置を検出して、正常に認識できるようにします。（初期値：有効）

ALG（アプリケーションレイヤーゲートウェイ）の設定

NAT機能を利用する環境下では、一部のアプリケーションやサービスについて、NAT上でサポートできるようにあらかじめ指定しておく必要があります。この画面では、利用したいアプリケーションやサービスをリストから選択することができます。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［NAT］→［ALG］を選択します。

アプリケーションレイヤーゲートウェイ

NATでサポートするアプリケーションを選択します。

有効	名前	備考
☑	Amanda	アマンダバックアップツールのプロトコルをサポートします。
☑	Egg	eggdrop bot ネットワークをサポートします。
☑	FTP	FTPをサポートします。
☑	H323	H323/netmeetingをサポートします
☑	IRC	NAT経由のDCC接続トラッキングを許可します。
☑	MMS	Microsoft Streaming Media Servicesをサポートします。
☑	Quake3	クエイクIIIアリーナ接続のトラッキングとNATをサポートします。
☑	Talk	Netfilter to track talk connectionsを許可します。
☑	TFTP	TFTPをサポートします
☑	IPsec	IPsecパススルーをサポートします。
☐	Starcraft	スタークラフト/Battele.netゲームプロトコルをサポートします。
☐	MSN	MSNファイル転送をサポートします。

適用　キャンセル

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●アプリケーションレイヤーゲートウェイ

リストの［有効］のチェックボックスをチェックすることで、選択したアプリケーションやサービスをNAT上でサポートできるようにします。
（初期値：すべて有効）

IPv6 Bridge機能の有効/無効の設定

プロバイダから提供されるIPv6サービスを利用できるようにする「IPv6 Bridge」機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［NAT］→［IPv6 Bridge］を選択します。

設定を変更した場合

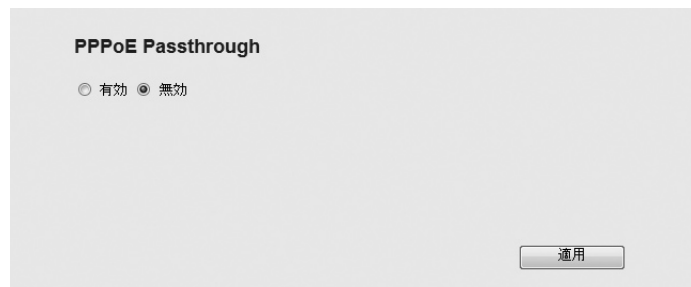
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●IPv6 Bridge

IPv6 Bridge	プロバイダから提供されるIPv6サービスを、本製品を経由して利用できるようにする「IPv6 Bridge」機能の有効/無効を設定します。IPv6サービスを利用する場合でも、本製品を経由しない場合は無効にしてもかまいません。（初期値：有効）

PPPoE Passthrough 機能の有効/無効の設定

PPPoEセッションのパススルーを有効にするか、無効にするかを選択します。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［NAT］→［PPPoE Passthrough］を選択します。

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

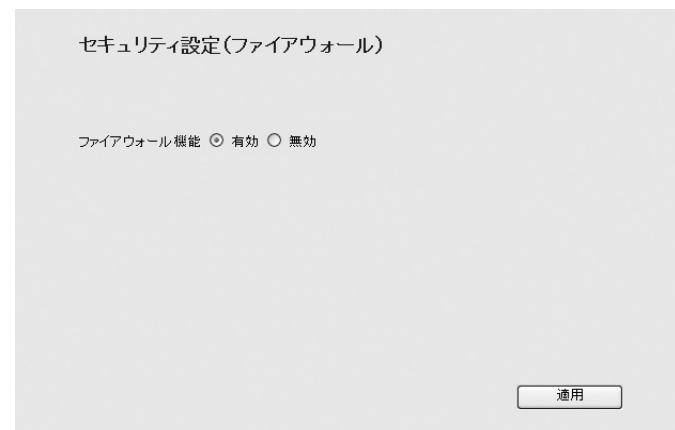
●PPPoE Passthrough
この機能を有効にすると、ルータを経由して複数のパソコンがPPPoE接続でインターネットを楽しめるのと同時に、特定のパソコンから別のPPPoE接続で、フレッツスクエアのようなコンテンツを楽しむことができます※。（初期値：無効）
※複数のPPPoEセッションを利用して接続するサービスをプロバイダと契約している必要があります。

7 ファイアウォール機能を設定する

ネットワーク環境を安全で快適に使用できるように、各種ファイアウォールを設定できます。

セキュリティ設定（ファイアウォール）

ファイアウォール機能を有効にするか、無効にするかを選択します。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［ファイアウォール］を選択します。

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●ファイアウォール機能
この機能を有効にすると、不正アクセスを防止したり、スパム対策、見せたくないWebサイトのブロックなど、さまざまなセキュリティ対策が可能になります。

アクセスコントロールの設定

登録したMACアドレスを持つクライアントとの通信を許可または拒否したり、登録したIPアドレスを持つクライアントが利用できるインターネットサービスの内容を制限することができます。

IPアドレスフィルタリングを利用する場合で本製品のDHCPサーバ機能を有効にしているときは、P49「LAN側の設定をする」の「固定DHCPリース」機能を使ってIPアドレスフィルタリングの対象となるクライアントのIPアドレスを固定するようにしてください。DHCPサーバ機能により動的にIPアドレスが変更されると、正しくフィルタリングすることができません。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［ファイアウォール］→［アクセスコントロール］を選択します。

アクセスコントロール

☑ MACアドレスフィルタを有効　○ 拒否　◉ 許可

クライアントPC MACアドレス	Computer name	備考
	<< ---------Select---------	

追加　リセット

MACフィルタテーブル

NO.	Computer name	クライアントPC MACアドレス	備考	選択
1	OFFLINE	12:34:56:78:90:ab	sales-team01	☐
2	OFFLINE	12:34:56:78:90:cd	sales-team02	☐

選択項目を削除　すべて削除　リセット

☑ IPアドレスフィルタを有効(最大20台)　○ 拒否　◉ 許可

NO.	クライアントPC情報	クライアントPC IPアドレス	クライアントサービス	プロトコル	ポート範囲	選択
1	guest	192.168.2.161-192.168.2.180	WWW, E-mail Sending, E-mail Receiving			☐

追加　選択項目を削除　すべて削除

適用　キャンセル

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず［適用］をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は［戻る］を、変更した内容をすぐに有効にする場合は［保存］をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

MACアドレスフィルタリング

登録したMACアドレスを持つクライアントとの通信を許可または拒否できます。

●MACアドレスフィルタを有効

MACアドレスフィルタリングを使用する場合はチェックボックスをチェックします。さらに、登録したMACアドレスを持つクライアントの接続を「拒否」するのか、「許可」するのかを選択します。（初期値：オフ/拒否）

許可：登録したMACアドレスを持つクライアントのアクセスだけを許可します。
　　　登録していないクライアントは一切アクセスできません。
拒否：登録したMACアドレスを持つクライアントのアクセスは拒否します。

●入力・設定画面の内容

項目	内容
クライアントPC MACアドレス	フィルタリングするクライアントのMACアドレスを入力します。
Computer name	本製品にアクセスしているクライアントのコンピュータ名をプルダウンメニューで表示しますので、フィルタリングするコンピュータ名を選択します。［<<］をクリックすると自動的にそのコンピュータのMACアドレスが設定されます。
備考	メモなど任意の文字を入力できます。

●MACフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。［選択］は、登録したクライアントを削除する場合にチェックします。

●クライアントの登録方法

❶ ［MACアドレスフィルタを有効］をチェックします。確認のメッセージが表示されますので OK をクリックします。
❷ 登録したクライアントのアクセスを「拒否」するのか「許可」するのかを選択します。
❸ ［Computer name］のプルダウンメニューでコンピュータ名を選択し、 << をクリックすると、［クライアントPC MACアドレス］に自動的にMACアドレスが入力されます。また、［クライアントPC MACアドレス］に、コンピュータのMACアドレスを直接入力することもできます。「：」で区切る必要はありません。例 1234567890ab
❹ 必要に応じて［備考］にメモなど任意の文字を入力します。
❺ 追加 をクリックします。MACフィルタテーブルにクライアントが追加されます。
❻ 登録するクライアントが複数ある場合は、❶〜❺を繰り返します。
※ 適用 をクリックして保存操作をしたのちに、設定が反映されます。

●各ボタンの機能

追加	入力したコンピュータの設定をリストに追加します。
リセット	入力中の内容や選択状態をクリアします。
選択項目を削除	［選択］をチェックしたクライアント情報をリストから削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
すべて削除	リストのMACアドレスをすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
リセット	［選択］のチェックをすべてクリアします。

IPアドレスフィルタリング

登録したIPアドレスを持つクライアントが利用できるインターネットサービスの内容を制限することができます。

☑ IPアドレスフィルタを有効(最大20台) ○ 拒否 ◉ 許可

NO.	クライアントPC情報	クライアントPC IPアドレス	クライアントサービス	プロトコル	ポート範囲	選択
1	guest	192.168.2.161-192.168.2.180	WWW, E-mail Sending, E-mail Receiving			☐

追加　選択項目を削除　すべて削除

●IPアドレスフィルタを有効

IPアドレスフィルタリングを使用する場合はチェックボックスをチェックします。さらに、クライアントが登録したサービスの利用を「拒否」するのか、「許可」するのかを選択します。（初期値：オフ/拒否）

許可：登録したIPアドレスを持つクライアントは、登録したサービスだけを利用できます。
拒否：登録したIPアドレスを持つクライアントは、登録したサービスを利用できません。

●IPアドレスフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。［選択］は、登録したクライアントを削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

追加	IPアドレスフィルタリングの設定画面を表示します。内容については、このあとの「クライアントの登録方法」をお読みください。
選択項目を削除	［選択］をチェックしたクライアント情報をリストから削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
すべて削除	リストのIPアドレスをすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。

●クライアントの登録方法

IPアドレスフィルタを追加

IPアドレスフィルタの詳細設定を行います。

クライアントPC情報：guest
クライアントPC IPアドレス：192.168.2.161 - 192.168.2.180

クライアントPCサービス：

サービス名	詳細	選択
WWW	HTTP, TCP Port 80, 3128, 8000, 8080, 8081	☑
E-mail Sending	SMTP, TCP Port 25	☑
News Forums	NNTP, TCP Port 119	☐
E-mail Receiving	POP3, TCP Port 110	☑
Secure HTTP	HTTPS, TCP Port 443	☐
File Transfer	FTP, TCP Port 21	☐
MSN Messenger	TCP Port 1863	☐
Telnet Service	TCP Port 23	☐
AIM	AOL Instant Messenger, TCP Port 5190	☐
NetMeeting	H.323, TCP Port 389,522,1503,1720,1731	☐
DNS	UDP Port 53	☐
SNMP	UDP Port 161, 162	☐
VPN-PPTP	TCP Port 1723	☐
VPN-L2TP	UDP Port 1701	☐
TCP	All TCP Port	☐
UDP	All UDP Port	☐

ユーザー定義サーバ

プロトコル：両方
ポート範囲：

追加　リセット

❶ ［IPアドレスフィルタを有効］をチェックします。確認のメッセージが表示されますので OK をクリックします。
❷ 登録したクライアントに対して指定したサービスの利用を「拒否」するのか、「許可」するのかを選択します。
❸ 追加 をクリックします。〈IPアドレスフィルタを追加〉画面が表示されます。

❹［クライアントPC情報］に任意の文字列を入れます。管理しやすい名前を入力します。
❺［クライアントPC IPアドレス］でフィルタリングするクライアントPCのIPアドレスの範囲を指定します。IPアドレスは「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.161
❻ 一覧から対象となるサービスを選択します。
❼ フィルタリングの対象となるプロトコルとポート範囲を指定します。
❽ 追加 をクリックします。リセット をクリックすると設定した内容がすべてクリアされます。

URLブロックの設定

特定のWebサイトのURLやキーワードを設定することで、ホームページの閲覧を制限します。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［ファイアウォール］→［URLブロック］を選択します。

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●URLブロックを有効
URLブロックを使用する場合はチェックします。（初期値：オフ）

●現在のURLブロックテーブル
入力画面で設定した内容をリストとして表示します。［選択］は、登録したコンピュータの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

追加	入力したURLおよびキーワードをリストに追加します。
リセット	入力中の内容をクリアします。
選択したものを削除	［選択］をチェックした番号の内容を削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
すべてを削除	リストの内容をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
リセット（現在のURLブロックテーブル）	［選択］のチェックをすべてクリアします。

URLおよびキーワードの登録方法

❶［URLブロックを有効］をチェックします。
確認のメッセージが表示された場合は OK をクリックします
❷［URL/キーワード］に登録したいWebサイトのURLやキーワードを入力します。
❸ 追加 をクリックします。現在のURLブロックテーブルにURLまたはキーワードが追加されます。
❹ 登録するURLまたはキーワードが複数ある場合は、❶〜❸を繰り返します。
※ 適用 をクリックして保存操作をしたのちに、設定が反映されます。

DoS防御設定

インターネットからのDoS（Denial of Service）攻撃を防御するための設定をします。

 ［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［ファイアウォール］→［DoS］を選択します。

◆詳細設定画面

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●詳細設定画面について

詳細設定 をクリックすると、各項目の内容をより細かく設定できます。

●各項目の設定内容

ピン・オブ・デス	ping of deathによる攻撃を防御します。
WANからのpingを破棄	WAN（インターネット）側から受けるpingを拒否します。
ポート検索	WAN（インターネット）側からのポート検索を拒否します。詳細設定では、拒否する内容を細かく設定できます。
シンクロフルード	SYN flood攻撃を防御します。

DMZの設定

通常、NAT変換を利用するルータでは、WAN（インターネット）側からLAN上のパソコンにアクセスすることはできません。DMZ機能を使用すると、指定したコンピュータにWAN側からアクセスできるようになります。これにより、LAN上からは通常使用できない双方向通信を利用したサービスを利用できます。

 ［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［ファイアウォール］→［DMZ］を選択します。

設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●DMZを有効

DMZを使用する場合はチェックします。（初期値：オフ）

●DMZテーブル

DMZを登録したクライアントのリストが表示されます。

●各ボタンの機能

追加	DMZを利用するコンピュータを登録します。
リセット	入力中の内容をクリアします。
選択項目を削除	［選択］をチェックした番号の内容を削除します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
すべて削除	リストの内容をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、OK をクリックします。
リセット（DMZテーブル）	［選択］のチェックをすべてクリアします。

DMZの設定方法

❶［DMZを有効］をチェックします。
❷［IPアドレス］で接続方法を選択します。［動的IP］の場合は、WANポートを選択します。［静的IPアドレス］の場合は、WAN側のIPアドレスを入力します。IPアドレスは「.」で区切る必要があります。例 192.168.2.201
❸［Computer name］のプルダウンメニューで、インターネットから接続するLAN上のコンピュータ名を選択し、 << をクリックします。［クライアントPC IPアドレス］に自動的にIPアドレスが入力されます。
また、［クライアントPC IPアドレス］に、コンピュータの（ローカル）IPアドレスを直接入力することもできます。その場合「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.201
❹ 追加 をクリックします。DMZテーブルにクライアントが追加されます。
❺ 登録するクライアントが複数ある場合は、❶〜❹を繰り返します。

※ 適用 をクリックして保存操作をしたのちに、設定が反映されます。

8 ツール機能を使う

ツール機能には、設定の保存、設定の初期化（工場出荷時の状態に戻す）、ファームウェアのアップデートなどができます。

設定ツール

本製品の設定情報をファイルとして保存できます。保存したファイルを読み込むことで、本製品の状態を、設定情報を保存した時点の状態にすることができます。また、本製品の設定内容を初期値（工場出荷時の状態）に戻すことができます。

［ホーム］で左のメニューリストから［管理ツール］→［設定ツール］を選択します。

設定ツール

ルータの現在の設定を保存できます。ファイル名は「config.bin」です。また保存した設定をルータに読み込めます。ルータを初期化して工場出荷時の設定に戻すこともできます。

バックアップ設定：保存...
設定の読み込み：参照... アップロード
工場出荷時設定：再起動

設定の保存方法

バックアップ設定：保存...

❶ 保存 をクリックします
❷〈ファイルのダウンロード〉画面が表示されますので、 保存 をクリックします。
❸〈名前を付けて保存〉画面が表示されますので、ファイルの保存場所を指定し、 保存 をクリックします。指定した場所に「config.bin」ファイルが保存されます。
❹〈ダウンロードの完了〉画面が表示されますので、 閉じる をクリックします。〈設定ツール〉画面に戻ります。

設定の読み込み方法

設定の読み込み：ers\master\Desktop\config.bin 参照... アップロード

❶［設定の読み込み］の 参照 をクリックします
❷〈ファイルの選択〉画面が表示されますので、設定ファイルを指定します。
❸ アップロード をクリックします。
❹ しばらくすると、「読込に成功しました！」と表示されますので、OK をクリックします。〈設定ツール〉画面に戻ります。

設定を初期化（工場出荷時の状態）に戻す

本製品の設定を初期化（工場出荷時の状態に戻す）します。ご購入後に変更した設定はすべて初期値に戻ります。必要に応じて初期化の前に設定をファイルに保存してください。

工場出荷時設定：再起動

❶［工場出荷時設定］の 再起動 をクリックします。
❷ 工場出荷時の状態に戻してよいか、確認のメッセージが表示されますので OK をクリックします。
❸ しばらくすると、「設定の読み込みに成功しました！」と表示されますので、OK をクリックします。〈設定ツール〉画面に戻ります。

ファームウェアのアップデート

機能の充実や改良により、本製品のファームウェアをバージョンアップすることがあります。ファームウェアは、弊社Webサイトのサポートページよりダウンロードできます。

画面の表示 **［ホーム］で左のメニューリストから［管理ツール］→［ファームウェアアップデート］を選択します。**

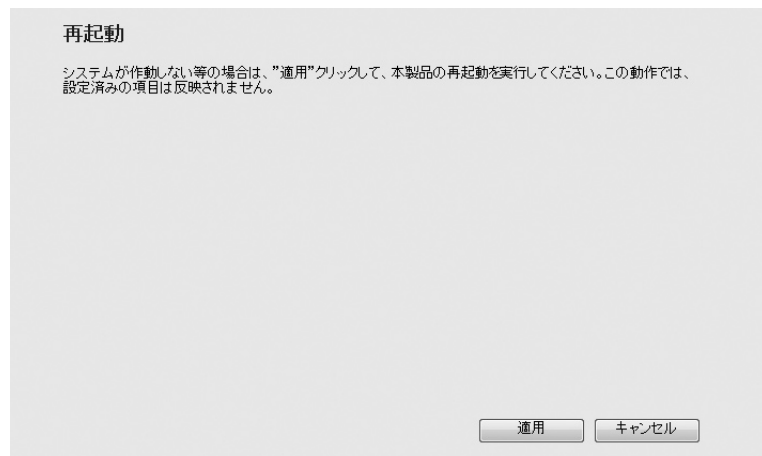
ファームウェアのアップデート手順

❶ 弊社Web サイトなどからあらかじめ最新のファームウェアをダウンロードして、デスクトップなどに保存しておきます。
・ ダウンロード前に注意事項などがないか、ダウンロードページでご確認ください。
❷ 次へ をクリックします。
❸ 参照 をクリックします。

❹〈ファイルの選択〉画面が表示されますので、ダウンロードしたファイルを指定します。
❺ 適用 をクリックします。
❻ しばらくすると、「読込に成功しました！」と表示されますので、OK をクリックします。〈ファームウェアアップデート〉画面に戻ります。

本製品の再起動

本製品の動作が不安定になった場合など、システムを再起動したい場合に使用します。
なお、設定を変更中に、この画面から再起動しても変更した内容は反映されません。

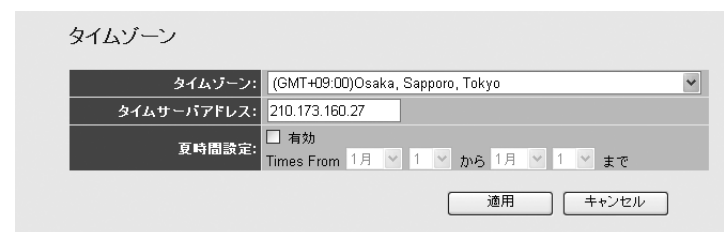
［ホーム］で左のメニューリストから［管理ツール］→［再起動］を選択します。

再起動の手順

❶ 適用 をクリックします
❷ 再起動を確認する画面が表示されますので、 OK をクリックします。
❸ 再起動中に電源を切らないように注意を促すメッセージが表示されますので、 OK をクリックします。
❹「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。 OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

9 システム設定

タイムゾーンの設定

本製品の日時を設定します。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［システム］→［タイムゾーン］を選択します。

タイムゾーン	本製品が使用する標準時を設定します。（初期値：(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo）
タイムサーバアドレス	本製品の時刻を調整するときに使用するタイムサーバのアドレスを指定します。（初期値：210.173.160.27）
夏時間設定	サマータイムの設定です。サマータイムを使用する場合に［有効］をチェックし、期間を設定します。（初期値：無効）

設定を変更した場合
設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 保存 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

パスワード設定

本製品の設定ユーティリティを表示するためのパスワードを設定/変更します。

［ホーム］で左のメニューリストから［システム］→［パスワード設定］を選択します。

設定の手順

❶［現在のパスワード］に、現在のパスワードを入力します。
❷［新しいパスワード］に、新しく設定するパスワードを入力します。
❸［パスワードの確認］に、もう一度、新しいパスワードを入力します。
❹ 適用 をクリックします
❺ 認証画面（→P24）が表示されますので、本製品のユーザー名と新しく設定したパスワードを入力し、 OK 　をクリックします。
・［ホーム］が表示されます。

リモート管理の設定

WAN（インターネット）側から本製品の設定ユーティリティを利用できるようにします。

［ホーム］で左のメニューリストから［一般設定］→［システム］→［リモート管理］を選択します。

設定の手順

❶［ホストアドレス］に、WAN側からアクセスできるリモートコンピュータのIPアドレスを入力します。
❷［ポート］に、リモートコンピュータの開放するポート番号を入力します。
（初期値：8080）
❸［有効］をチェックします。
❹ 適用 をクリックします
❺ 他の項目の設定続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに保存する場合は 保存 をクリックします。
※このあとは画面のメッセージに従ってください。

10 ステータス

［ホーム］→［ステータス］で、本製品に関するさまざまなステータス情報を確認することができます。

ステータス情報

ステータス＆情報

ステータスで、WAN/LANインターフェース、本製品のバージョン、不正アクセス、接続しているDHCPクライアントなど、各種ステータスを表示できます。

システム

モデル	Wireless Router
稼働時間	0day:0h:25m:41s
ハードウェアバージョン	Rev. A
ブートコードバージョン	1.0
ランタイムコードバージョン	1.10

●項目の説明

モデル	本製品のモデルタイプを表示します。
稼動時間	本製品の起動後の経過時間を表示します。電源を切ったり、再起動するとリセットされます。
ハードウェアバージョン	それぞれのバージョンを表示します。トラブルが発生した場合に、必要になることがあります。
ブートコードバージョン	
ランタイムコードバージョン	

インターネット接続

インターネット接続

使用中のIPプロトコル：	Dynamic IP disconnect
IPアドレス：	
サブネットマスク：	
デフォルトゲートウェイ：	0.0.0.0
MACアドレス：	00:11:22:33:44:56
プライマリDNS：	
セカンダリDNS：	

●項目の説明

使用中のIPプロトコル	現在、使用中のIPプロトコルを表示します。
IPアドレス	WAN（インターネット）側のIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、MACアドレスを、それぞれ表示します
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	
MACアドレス	
プライマリDNS	接続先のプライマリDNSを表示します。
セカンダリDNS	接続先のセカンダリDNSを表示します。

デバイス情報

デバイス情報

無線設定	
モード	AP
SSID	logitecuser
チャンネル	auto
セキュリティ	WEP
LAN設定	
IPアドレス	192.168.2.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバ	有効
MACアドレス	00:11:22:33:44:55

●無線設定

モード	現在の通信モードを表示します。通信モードについては、無線LAN設定の「基本設定」をご覧ください。
SSID	現在使用中のSSIDを表示します。マルチSSIDを使用している場合は、ひとつめのSSIDが表示されます。
チャンネル	現在のチャンネルモードを表示します。
セキュリティ	現在使用中のセキュリティ設定を表示します。

●LAN設定

IPアドレス	本製品のLAN側のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品のLAN側のサブネットネットマスクを表示します。
DHCPサーバ	本製品のDHCPサーバ機能が有効か無効かを表示します。
MACアドレス	本製品のLAN側のMACアドレスを表示します。

各種ログの表示

本製品には、システム、セキュリティ、無線アクセスの各ログを保存する機能があります。保存されたログは、［ホーム］→［ステータス］の各ログ画面を選ぶことで表示できます。ログはテキストファイルとして保存することもできます。

●各ボタンの機能

保存	ログをテキストファイルとして保存できます。このボタンをクリックすると、〈名前を付けて保存〉画面が表示されますので、保存先などを指定して、ログを保存します。
消去	現在、本製品上に保存されているログを、すべて消去します。
更新	表示中のログを最新の情報に更新します。

◆システムログ

◆セキュリティログ

◆無線アクセスログ

接続中のDHCPクライアント

●接続中のDHCPクライアント

IPアドレス	クライアントのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	クライアントのMACアドレスを表示します。
制限時間（s）	DHCPサーバより割り当てられたIPアドレスの制限時間を表示します。

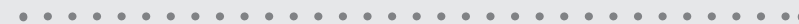
●各ボタンの機能

更新	最新の情報に更新します。

パケット統計

●パケット統計

無線LAN	本製品から見た無線LANにおける、パケット送信数と受信パケット数を表示します。
イーサネットLAN	本製品から見た有線LANにおける、パケット送信数と受信パケット数を表示します。
WAN	本製品から見たWAN側に対する、パケット送信数と受信パケット数を表示します。

Appendix

付録編

1 ネットワーク設定マニュアルの読み方

本製品に付属のCD-ROMの中にはOSごとのネットワーク設定の方法について説明したPDF版「ネットワーク設定マニュアル」を収録しています。

●マニュアルの概要
このマニュアルは、ネットワークの基本的なことを説明した「基礎知識編」とOSごとのネットワーク設定の方法を説明した「各OS編」に分かれています。必要なファイルだけをA4サイズの用紙に印刷してご利用いただくと便利です。
なお、カラー対応になっていますのでカラープリンタで印刷していただくと、より分かりやすくなります。
ネットワーク設定マニュアルは有線LANでの説明になっていますが、無線LANでもネットワーク設定の方法は同じです。

●利用方法
①付属のCD-ROMをドライブに入れ、セットアップメニューを表示します。
②セットアップメニューの「FAQ」をクリックし、FAQ（Logitecサポート情報）を表示します。
③FAQトップページの一番下に「ネットワーク設定マニュアル」のリンクがありますので、クリックして説明をお読みください。
マイコンピュータなどでCD-ROMの内容を表示し、「manual」フォルダに収録されているファイルを直接ダブルクリックしてもご覧いただけます。

●「manual」フォルダの内容
「manual」フォルダには、本製品のマニュアルも収録されています。ネットワーク設定マニュアルのファイルは次のとおりです。

・ネットワーク設定マニュアルの利用法（.PDF）
・1-基礎知識編（.PDF）
・2-Windows_XP編（.PDF）
・3-Windows_ME_98編（.PDF）
・4-Windows_2000編（.PDF）
・5-Windows_Vista編（.PDF）

●Adobe Acrobat Readerをお持ちでない場合
「ネットワーク設定マニュアル」をお読みになるには、Acrobat（Adobe）Readerが必要です。お持ちでない場合は付属のCD-ROMからインストールしてください。

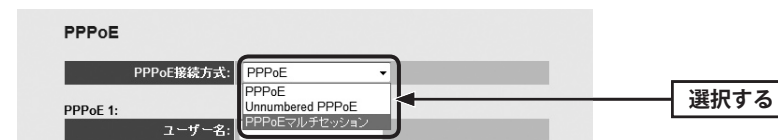
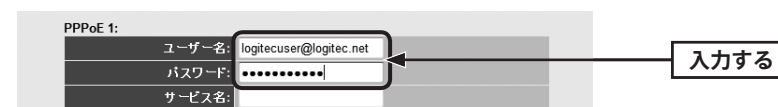
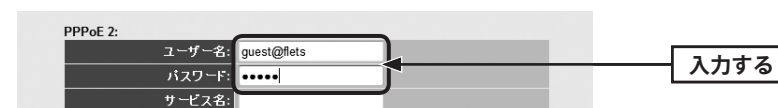
①マイコンピュータなどから付属のCD-ROMの内容を表示します。
②「acrobat_reader」フォルダがありますので、その内容を表示します。
③フォルダ内のプログラムアイコンをダブルクリックします。
④画面のメッセージに従ってインストールしてください。

2 フレッツ・スクウェア使用時の設定

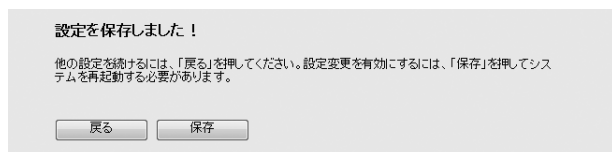
本製品でNTT東日本、NTT西日本の「フレッツ・スクウェア」サービスを利用する場合の設定手順を説明します。このマニュアルのP41「PPPoEの設定」や、NTT東日本またはNTT西日本のホームページにある説明もご参照ください。

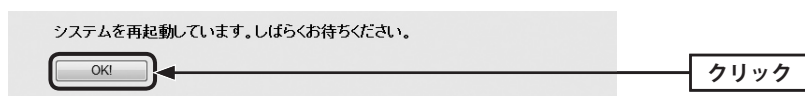
ここでは、通常のインターネット接続で使用するアカウントを「PPPoE1」、フレッツ・スクウェアで使用するアカウントを「PPPoE2」に登録する例を説明します。

1 設定ユーティリティの「WAN側設定」を選択し、画面左側のメニューにある[PPPoE]をクリックします（→P41「PPPoEの設定」）。

2 「PPPoE接続方式」で[PPPoEマルチセッション]を選択します。画面が2つのアカウントを登録可能な画面に切り替わります。

3 「PPPoE1」に、通常のインターネット接続で使用するアカウント（ユーザー名とパスワード）を登録します。

4 引き続き「PPPoE2」に、フレッツ・スクウェアで使用するアカウントを登録します。

NTT東日本	ユーザー名：guest@flets　　パスワード：guest
NTT西日本	ユーザー名：guest　　パスワード：flets

5 **すべての設定が終われば、 適用 をクリックします。**

6 **「設定を保存しました！」と表示されます。**

●他の設定を続ける場合→ 戻る をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
●変更した設定を保存して有効にする場合→ 保存 をクリックし、手順 7 へ進みます。

7 **「システムを再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。**
OK にカウントが表示されます。カウントが0になり、ボタンが有効になれば OK をクリックします。

8 **ブラウザをいったん閉じます。フレッツ・スクウェアにアクセスするには、Webブラウザのアドレス入力欄に、「http://www.flets/」と入力し、ホームページに接続します。**

3 こんなときは

無線LAN関係のトラブル

添付CD-ROMのセットアップメニューから閲覧できる「FAQ」もご参照ください。

ネットワークの設定について
ネットワーク設定やIPアドレスを手動で割り当てる方法については、付属のCD-ROMにあるPDF版「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考にしてください。「ネットワーク設定マニュアル」の使い方についてはP126「1. ネットワーク設定マニュアルの読み方」をお読みください。

●無線LANがつながらない。

①ネットワーク設定で実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか？　プロトコル（TCP/IPなど）、クライアント（Microsoft Networkクライアントなど）、サービス（Microsoft Network共有サービスなど）を環境に応じて設定する必要があります。

②ルータなどのDHCPサーバ機能を使用せずにインターネットプロトコル「TCP/IP」を利用する場合は、各パソコンに手動でIPアドレスを割り当てる必要があります。手順については、「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考にしてください（→P126）。

◆CATVインターネットなどでは、回線事業者からIPアドレスを指定される場合があります。その場合は指示に従ってください。

③本製品のセキュリティ設定やアクセスポイントのMACアドレスフィルタリング設定は正しいですか？　セキュリティ設定は、無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定にする必要があります。また、MACアドレスフィルタリングを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

●セキュリティ機能を設定後に無線LANがつながらない。

①セキュリティ設定は、同じ無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定になっている必要があります。設定が少しでも異なる機器はネットワークに接続することができません。

②各セキュリティ機能で使用するパスワードや暗号などの文字列は大文字と小文字が区別されたりします。また、意味のない文字列は入力ミスが発生しやすいので特に注意して確認してください。

◆セキュリティ設定でのトラブルのほとんどがスペルミスや設定ミスですのでよく確認してください。

③設定を変更した直後や設定が正しい場合は、アクセスポイントを含め、すべての機器の電源を入れ直してから接続してみてください。

●WPSがつながらない。

①WPSランプが速く点滅している場合は、エラーが発生している可能性があります。もう一度初めからやりなおしてください。繰り返し接続に失敗するようであれば、他の接続方法を試してみてください。

②入力したPINコードが誤っていることがあります。再度PINコードを自動生成して接続してください。繰り返し接続に失敗するようであれば、他の接続方法を試してみてください。

共通のトラブル

●インターネットに接続できない。

①TCP/IPプロトコルが正しく設定されているかを確認してください。
〈ネットワーク〉画面でTCP/IPプロトコルが設定されているかを調べてください。見あたらない場合は、TCP/IPプロトコルを追加してください。

②DHCPサーバ機能を使用していない場合は、IPアドレスを手動で割りあててください。
TCP/IPのプロパティにある<IPアドレス>タブで設定します。
手順については、「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考にしてください（→P126）。

③TCP/IPプロトコルの設定が正しいかを確認してください。
プロバイダによって、IPアドレスを自動取得する場合と固定IPアドレスを指定する場合があります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

④プロバイダから提供された情報をすべて設定したかを確認してください。
IPアドレス以外にも、識別情報の指定などが必要なことがあります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークパソコンを開くと「ネットワークを参照できません。」のエラーが表示される。

①正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、デバイスマネージャなどで本製品の設定を確認し、OS側が本製品を正常に認識しているか調べてください。

●他のパソコンのファイルやプリンタの共有ができない。

①ネットワーク設定をしましたか？
無線LANが正常に動作していてもネットワーク設定ができていないとファイルの共有やプリンタの共有はできません。
P126「ネットワーク設定マニュアル」に詳しい説明がありますので参考にしてください。

4 パソコンのIPアドレスの確認方法

本製品の設定ユーティリティにアクセスできない場合に、本製品の設定ユーティリティにアクセスするパソコンのIPアドレスがどのようになっているかを確認する方法を説明します。
ここで説明しているIPアドレスの確認方法は、本製品に接続する有線および無線クライアントのIPアドレスを確認するときにも使用できます。

パソコンのIPアドレスを表示する

Windows Vistaの場合

❶ [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。

❷〈コマンドプロンプト〉画面が表示されます。「>」のあとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。

```
Microsoft Windows [Version 6.0.60000]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation.  All rights reserved.

C:Users¥master>ipconfig
```

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、[BackSpace]キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。
「"xxx"は、内部コマンド･･･」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

❸「イーサネット　アダプタ　ローカル　エリア接続※」の「IPv4アドレス」に現在のIPアドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます(xxxは任意の数字)。

```
イーサネット　アダプタ　ローカル　エリア接続：


接続固有の DNS サフィックス . . . :
リンクローカル IPv6 アドレス. . . . :  fe80::b0ac:15cf:beb9:d431%8
IPv4 アドレス . . . . . . . . . . :  192.168.2.100
サブネット マスク . . . . . . . . :  255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ . . . . . :  192.168.2.1
```

※本製品に接続しているクライアントの種類によって表記は異なります。

❹ 本製品を工場出荷状態(初期値)で使用している場合に、パソコンで表示されるIPアドレスの内容については、P134「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

Windows XP/2000の場合

❶ [スタート]→[(すべての) プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。

❷〈コマンドプロンプト〉画面が表示されます。「>」あとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、キーを押します。

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:¥Documents and Settings¥main-user>ipconfig
```

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、[BackSpace]キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。
「"xxx"は、内部コマンド･･･」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

❸「イーサネット　アダプタ　ローカル　エリア接続※」の「IPv4アドレス」に現在のIPアドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます(xxxは任意の数字)。

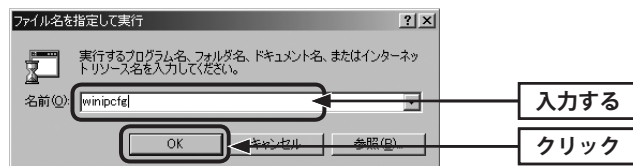
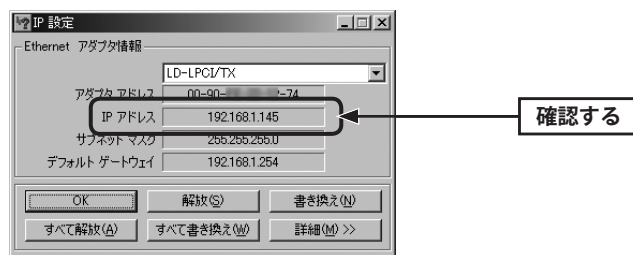
```
Windows IP Configuration


Ethernet adapter ローカル エリア接続:

        Connection-specific DNS Suffix  . :
        IP Address. . . . . . . . . . . . : 192.168.1.145
        Subnet Mask . . . . . . . . . . . : 255.255.255.0
        Default Gateway . . . . . . . . . : 192.168.1.254
```

※本製品に接続しているクライアントの種類によって表記は異なります。

❹ 本製品を工場出荷状態(初期値)で使用している場合に、パソコンで表示されるIPアドレスの内容については、P134「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

Windows Me/98の場合

❶［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

❷「名前」に「winipcfg」と入力します。
❸［OK］ボタンをクリックします。

❹〈IP設定〉画面が表示されます。「IPアドレス」に「192.168.xxx.xxx」が表示されます（xxxは任意の数字）。

❺本製品を工場出荷状態（初期値）で使用している場合に、パソコンで表示されるIPアドレスの内容については、P134「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

工場出荷時での表示結果

本製品から正常にIPアドレスが割り当てられていると、各パソコンのIPアドレスは「192.168.2.xxx」と表示されます。「xxx」は任意の数字（初期値：100〜200のいずれか）です。またサブネットマスクが「255.255.255.0」、デフォルトゲートウェイが「192.168.2.1」と表記されていれば、本製品と正常に接続されています。

5 基本仕様

無線LAN部

項目	機種	仕様
規格	LAN-WN12/R	IEEE802.11g/IEEE802.11b/ARIB STD-T66
	LAN-WN22/R	IEEE802.11n（Draft）/IEEE802.11g/IEEE802.11b/ARIB STD-T66
周波数帯域		2.412〜2.472GHz（中心周波数）
チャンネル		Auto/1〜13ch
伝送方式	LAN-WN12/R	11g：OFDM方式　11b：DS-SS方式
	LAN-WN22/R	11n（Draft）：OFDM方式　11g：OFDM方式　11b：DS-SS方式
データ転送速度（理論値）	LAN-WN12/R	G-Next適用時：最大150Mbps 11g：54/48/36/24/18/12/9/6Mbps　11b：11/5.5/2/1Mbps
	LAN-WN22/R	11n（Draft）適用時：最大300Mbps 11g：54/48/36/24/18/12/9/6Mbps　11b：11/5.5/2/1Mbps
アクセス方式		インフラストラクチャ（親機）
アンテナ方式	LAN-WN12/R	ダイポールアンテナ2本（送信1本、受信2本）
	LAN-WN22/R	ダイポールアンテナ2本（送信2本、受信2本）
セキュリティ		SSID（ステルス設定可）、マルチSSID、WEP64/128ビット、WPA-PSK（TKIP）、WPA2-PSK（AES）、MACアドレスフィルタリング
設定方式		WPS（ボタン搭載）

WAN/有線LAN部

項目	仕様
規格	IEEE802.3u（100BASE-TX）、IEEE802.3（10BASE-T）、 IEEE802.3x（Flow Control）
コネクタ	WAN：RJ-45×1ポート、LAN：RJ-45×4ポート
Auto MDI/MDIX	対応
オートネゴシエーション	対応

ルータ、その他一般仕様

項目	機種	仕様
ルーティング対応プロトコル		TCP/IP
インターネット（WAN）接続方式		PPPoE認証接続（2セッション）、IPアドレス自動取得接続、 IPアドレス固定接続
LAN接続方式設定		DHCPサーバ（有効/無効）、固定IPアドレス（手動設定）
セキュリティ		MACアドレスフィルタリング（許可/拒否）、 IPアドレスフィルタリング（許可/拒否）
ローカルサーバ機能		ポートフォワーディング、仮想DMZ、ダイナミックDNS（DDNS）、 クリアネット（ロジテック提供サービス）、DynDNS等
消費電力（定格）	LAN-WN12/R	4.5W
	LAN-WN22/R	5W
外形寸法		幅27×奥行104×高さ158mm（アンテナ部は含まず）
質量		約270g（ACアダプタ、縦置き用スタンドは含まず）

Logitec

IEEE802.11n（Draft）/11g/11b準拠 無線LANブロードバンドルータ　LAN-WN22/R
IEEE802.11g/11b準拠 無線LANブロードバンドルータ　LAN-WN12/R
ユーザーズマニュアル

発行

2008年8月8日　第2版